令和５年度農山漁村振興交付金

農山漁村発イノベーション推進事業

（農福連携型のうち普及啓発・専門人材育成推進対策事業）

「認知度向上セミナー」
「交付金活用セミナー」
「農福連携フォーラム＆マルシェ」
「農福連携技術支援者の集い」

＜事業実績報告書＞

概要版

2024 年 3 月 31 日

株式会社農都共生総合研究所

目次

事業内容	3~4p
認知度向上 web セミナー(1 回目)	5~ 6 p
認知度向上 web セミナー(2 回目)	7 ~ 8 p
交付金活用セミナー	9 ~10p
農福連携フォーラム＆マルシェ in 北海道	11~12p
農福連携フォーラム＆マルシェ in 東北	13~14p
農福連携フォーラム＆マルシェ in 北陸	15~16p
農福連携フォーラム＆マルシェ in 中国四国	17~18p
農福連携フォーラム＆マルシェ in 近畿	19~20p
農福連携フォーラム＆マルシェ in 東海	21~22p
農福連携フォーラム＆マルシェ in 九州	23~24p
農福連携フォーラム＆マルシェ in 関東	25~26p
農福連携技術支援者の集い	27~28p
セミナー・フォーラム申込者アンケート総計	29p
フォーラム実施後アンケート会場比較・合算	30~31p
マルシェ購入者アンケート全会場合算	32p
マルシェ全出店者対象実施後アンケート	33p
まとめ	34~36p

本アンケートを見る際の注意点
・申込者数、参加者数、アンケートには主催者・登壇者は含んでいない。
・セミナー及びフォーラム申込者のアンケートは、本事業のイベント募集をすべてオンラインで行っていることから、提出率はほぼ 100%である。しかし、各設問については回答が必須ではないため回答率にはばらつきがある。
・セミナー及びフォーラムの実施後アンケートもオンラインで行っているが、イベント実施後にアクセスすることは任意であるため、回答率は低い。無作為抽出によるサンプリングではないため全体を代表してはいない。
・マルシェ購入者アンケートは、各マルシェ会場で主催スタッフが購入者に直接声掛けをし、回答を得た。
・『「農福連携」街頭認知度調査』は、マルシェ会場やその周辺で、主催スタッフが無作為に通行人に声を掛けシール投票によって行った。

事業内容

「農福連携等推進ビジョン」で示された農福連携の課題である「知られていない」「踏み出しにくい」「広がっていかない」を解決する取組として、認知度向上 WEB セミナーを 2 回、交付金活用 WEB セミナー1 回、農福連携技術支援者の集い 1 回、フォーラム＆マルシェを全国 8 都市で各 1 回、を開催した。

官民挙げて農福連携の取組を推進していくためには、農業と福祉の両分野に関係する人々の認知を高めることはもとより、広く国民の政策への理解が欠かせない。

これらイベントに向けた地域関係者への協力要請や集客といった準備活動において多くの説明機会が派生していくことの普及啓発に資する効果は大きい。

とりわけ本事業のフォーラム＆マルシェは地方農政局の管轄地域を対象に都道府県を超えた広域から先進事業者が集まったことに特徴がある。

【認知度向上 WEB セミナー】

農福連携に関心を持ち始めた層を対象とし、わかりやすく親しみやすい形で農福連携の魅力を伝え、具体的な一歩を踏み出すことを促した。専門家による総論と福祉団体や農業者、企業等の当事者による各論で構成し、基礎的な内容や具体的な事例までがわかる内容とした。

【フォーラム】

開催地域における農福連携の取組としてノウフク・アワード受賞事業者を中心に「参考としやすい」多様なパターンの先進事例を紹介し、農福連携に参画する事業者の増加を促した。基調講演を依頼した先進事業者については事前調査を行った上で紹介動画を作成して講演の冒頭で放映した。開催地域の地方農政局の協力を得るなどして地方自治体関係者にも参加を呼びかけることで、農福連携に関係している行政関係者と民間事業者とが一堂に会する場ともなった。

【マルシェ】

フォーラム会場の近隣で同時開催した。開催情報を知って来場する関心のある人々だけではなく、たまたま通りかかった未だまったく農福連携という言葉すら知らない人々にも取り組みの意義や魅力に触れる機会を創出することを目的に、中心市街地の商業施設内や広場などの人の行き交う場所を会場に選定した。先進事業者の地域的広がりを見える化するためにフォーラムとマルシェに参加した事業者を紹介する『農福連携魅力物語 MAP』を作成し、フォーラム＆マルシェのチラシの裏面に印刷したリーフレットを事前の広報活動やマルシェ当日の会場を中心に配布し啓発に努めた。

【農福連携技術支援者の集い】

前年度に続き 2 回目の集いを開催した。農福連携の研究者と、福祉、農業、企業、行政の各現場で農福連携に取り組む農福連携技術支援者が登壇し、農福連携を取り巻く情報と課題を共有するとともに、農福連携技術支援者間の交流を図った。

【交付金活用 WEB セミナー】

農山漁村振興交付金を利用して農福連携事業を軌道に乗せている農業者と福祉事業者からの実践報告と、農林水産省と厚生労働省の担当官から農福連携の取り組みを後押しする政策メニューの紹介を行った。

【オンライン特設サイトの開設】

各イベントの広報や記録、情報集約を目的としてポータルサイト『マイナビ農業』上に特設サイト『農福連携魅力物語』を開設した。

https://agri.mynavi.jp/regional-agricultural-welfare-collaboration/

【効果検証】

各イベントの参加者・出店者の募集時と実施後にアンケートを行い、実態調査や効果検証を行った。マルシェ会場では購入者アンケートや街頭認知度調査も行った。

開催日	イベント名	会場（所在地）
2023/ 7 /25	**農福連携 WEB セミナー** （認知度向上 web セミナー①）	配信会場：ホテル東京ガーデンパレス 3 階 桂 （東京都文京区湯島 1 - 7 - 5 ）
2023/8/22	**農福連携 WEB セミナー** （認知度向上 web セミナー②）	配信会場：ホテル東京ガーデンパレス 3 階 桂 （東京都文京区湯島 1 - 7 - 5 ）
2023/9/8	**農福連携フォーラム** **＆マルシェ in 北海道**	ASTY45 中研修室 1206 （北海道札幌市中央区北 4 条西 5-1 ） 札幌駅前通地下広場 （北海道札幌市中央区大通西 3）
2023/9/22	**農福連携フォーラム** **＆マルシェ in 東北**	SS30 第 1・2 会議室 （宮城県仙台市青葉区中央 4-6-1） AER2 階アトリウム （宮城県仙台市青葉区中央 1−3−1）
2023/10/12	**農福連携フォーラム** **＆マルシェ in 北陸**	TKP 金沢新幹線口会議室 会議室 3A （石川県金沢市堀川新町 2−1） 金沢駅東もてなしドーム地下広場 （石川県金沢市木ノ新保町 2）
2023/10/18	**農福連携フォーラム** **＆マルシェ in 中国四国**	Central Forest 4 階ローズマリー （岡山県岡山市北区本町 6-30 第一セントラルビル 3 号館） イオンモール岡山 未来スクエア （岡山市北区下石井 1 丁目 2 番 1 号）
2023/10/26	**農福連携フォーラム** **＆マルシェ in 近畿**	TKP ガーデンシティ京都タワーホテル 9 階 飛雲 （京都府京都市下京区東塩小路町 721−1） イオンモール KYOTO （京都府京都市南区西九条鳥居口町 1 ）
2023/11/8	**農福連携フォーラム** **＆マルシェ in 東海**	ツドイコ名駅東カンファレンスセンターRoomD （愛知県名古屋市中村区名駅 3 -21- 7 名古屋三交ビル 2 階） オアシス 21 （愛知県名古屋市東区東桜 1 − 11 − 1 ）
2023/12/7	**農福連携フォーラム** **＆マルシェ in 九州**	出島メッセ長崎 102 会議室 （長崎県長崎市尾上町 4 − 1 ） 長崎浜屋 1 階アーケード （長崎県長崎市浜町 7-11）
2023/12/22	**農福連携技術支援者の集い**	千葉大学松戸キャンパス　100 周年記念戸定ヶ丘ホール （千葉県松戸市松戸６４８）
2024/1/30	**農福連携フォーラム** **＆マルシェ in 関東**	JP タワー ホール＆カンファレンス カンファレンスルーム A （東京都千代田区丸の内 2 -7-2 KITTE4 階） 東京シティアイパフォーマンスゾーン （東京都千代田区丸の内 2-7-2 KITTE 地下 1 階）
2024/2/2	**農福連携交付金活用セミナー**	配信会場：ホテル東京ガーデンパレス 2 階 牡丹 （東京都文京区湯島 1 - 7 - 5 ）

アーカイブ動画一覧サイト

https://www.notosoken.jp/noufuku/%E4%BB%A4%E5%92%8C%EF%BC%95%E5%B9%B4%E5%BA%A6/#arcmovie

農林水産省 令和5年度農山漁村振興交付金事業

ノウフク

農福がはじめてのあなたに。

参加費無料

農福連携 WEBセミナー

～農福連携のススメ～

参加募集中

農福連携ってなに?

障害者等の就労の場の創出だけではなく、農業者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等の効果があり、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。この機会に「農福連携」を知ってみませんか?

開催日時 2023年7/25(火) 13:00~16:00

応募期間 6/26(月)~7/21(金) ※応募者多数の際は先着順とさせて頂きます。

場所 WEB開催 zoomURLは別途事務局よりご連絡いたします。
※リアルタイム視聴が難しい場合も、お申込み頂きますと、後日録画URLをお送りさせて頂きます。

セミナー内容

農福連携に興味のある方々に向け、【総論】【福祉団体】【農業者】【企業等】の各観点から、講師による基礎的な内容や具体的な事例までがわかるWEBセミナーを開催します。

1. 【総論】 **農業と福祉の連携に関する展望** ～農福連携研究の視点から～
   農研機構西日本農業研究センター 研究員 中本 英里 氏
2. 【福祉団体による取組】 **農福一体のソーシャルファーム**
   埼玉福興株式会社(埼玉県熊谷市) 代表取締役 新井 利昌 氏
3. 【農業者による取組】 **ネギ栽培で実践する組織的な農福連携**
   有限会社岡山県農商(岡山県岡山市) 代表取締役 板橋 良樹 氏
4. 【企業による取組】 **16年目の挑戦 コクヨが取り組む農福バランス**
   ハートランド株式会社(大阪府泉南市) 代表取締役 水谷 亨 氏
5. **農林水産省からの情報提供**
6. **ワークシート&フィードバック**
   本セミナーで得た知識を整理し、考えを深めるためのワークと、中本氏によるフィードバックの時間をご用意しております。

※セミナーの内容は予告なく変更する場合がございます。

受講対象 農福連携に興味のある方全般 農業者、社会福祉法人、企業経営者・担当者 等 どなたでもお気軽にご参加ください!

申込方法 申込はこちら

https://forms.gle/mSDReaZvu78Phy4WA

お問い合わせ先

株式会社農都共生総合研究所

TEL 03-3868-0889

E-mail noufuku@notosoken.jp

営業時間 10:00~18:00
※土日祝・年末年始を除く

講師プロフィール

農研機構
西日本農業研究センター
研究員
中本 英里 氏

専門は農業経済、農業経営。農福連携の効果に関する調査研究を始め、学術研究の実績も多数あり。数多くの講演やセミナーの講師を務め、農福連携の普及推進に尽力している。平成25年には、ヤンマー学生懸賞論文大賞受賞、平成30年には、地域農林経済学会個別報告優秀賞を受賞している。

埼玉福興株式会社
(埼玉県熊谷市)
代表取締役
新井 利昌 氏

「ソーシャル・ファーム」として、障害者やニート、罪を犯した者など、社会的に排除されやすい方々に対し、自立的かつ主体的に活動できる場や居場所を地域内で提供しながら、地域を支える担い手として社会循環を創りだしている。

有限会社岡山県農商
(岡山県岡山市)
代表取締役
板橋 良樹氏

岡山県の農業生産法人。平成20年にNPO法人岡山自立支援センターを設立。青ネギ、ミニトマトの通年出荷をメインにさまざまな農産物の生産・加工・販売を行なっている。障害者と高齢者を積極的に雇用しており、農福連携の発展に尽力している。

ハートランド株式会社
(大阪府泉南市)
代表取締役
水谷 亨氏

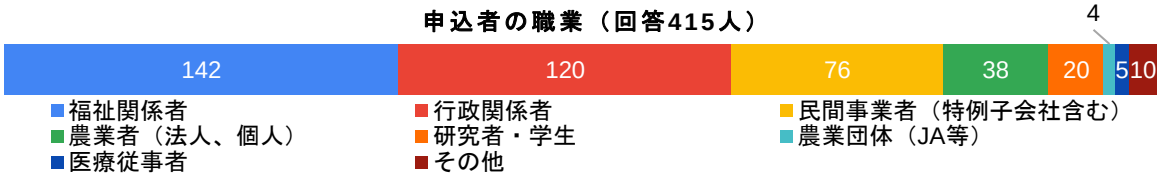
平成18年に設立したコクヨ株式会社の特例子会社。特例子会社の農地所有適格法人としては日本初の取組事例である。令和4年度は、知的障害者5名・精神障害者2名を含む従業員17名が、養液栽培によりサラダほうれんそう等を通年で栽培。24時間コンピュータ管理を導入し、高品質な野菜を安定的に生産している。

主催:株式会社農都共生総合研究所

上段左から、農水（八巻課長補佐、福田調整員）、水谷氏、新井氏、下段左から、農都（川辺）、中本氏、板橋氏

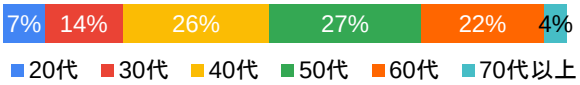
認知度向上 web セミナー①
開催日時　2023 年 7 月 25 日(火)13:00～16:00
オンライン開催
申込数：415 件　参加者数：296 人

申込者の職業（回答415人）

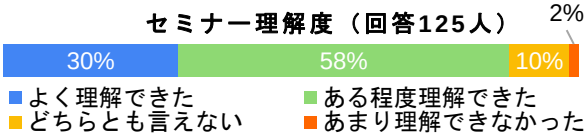


実施後アンケート

年齢（回答124人）

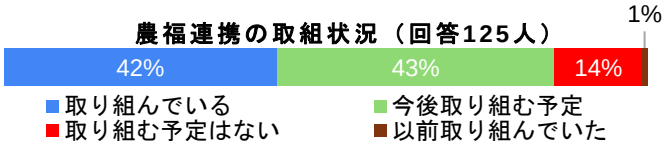


セミナー理解度（回答125人）



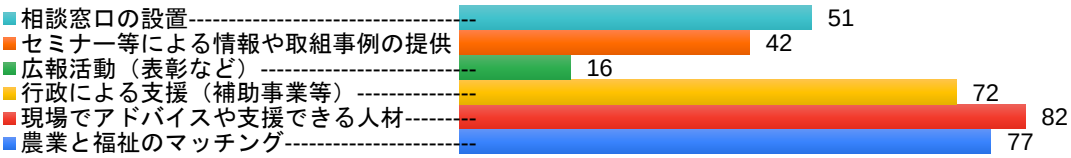
セミナー内容の満足度（回答125人）

農福連携の取組状況（回答125人）

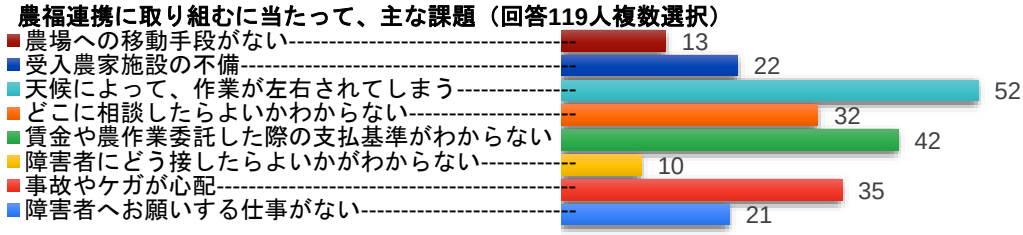


取組意欲（回答125人）

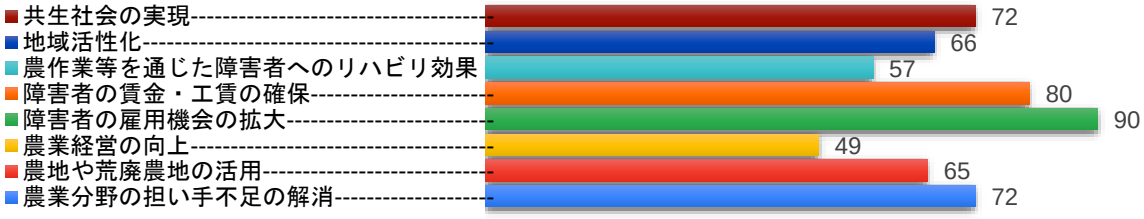
農福連携に取り組むのに必要なこと（回答125人、複数選択）



農福連携に取り組むに当たって、主な課題（回答119人複数選択）



農福連携に期待すること（回答125人、複数選択）



農林水産省 令和5年度農山漁村振興交付金事業

ノウフク

農福がはじめてのあなたに。

参加費無料

農福連携 WEBセミナー

～農福連携のススメ～

参加募集中

農福連携ってなに?

障害者等の就労の場の創出だけではなく、農業者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等の効果があり、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。
第1回目とは異なる講師陣を迎え、新たな視点・考え方を知るセミナーとなっております。この機会に「農福連携」を知ってみませんか?

開催日時 2023年8/22(火) 13:00~16:00

応募期間 7/25(火)～8/18(金)
※応募者多数の際は先着順とさせて頂きます。

場所 WEB開催
zoomURLは別途事務局よりご連絡いたします。
※リアルタイム視聴が難しい場合も、お申込み頂きますと、後日録画URLをお送りさせて頂きます。

受講対象 農福連携に興味のある方全般、農業者、社会福祉法人、企業経営者・担当者　等　どなたでもお気軽にご参加ください!

申込方法 申込はこちら ▶▶▶

https://forms.gle/UMRz77ybEY78Ue8M6

お問い合わせ先

株式会社農都共生総合研究所

TEL 03-3868-0889
E-mail noufuku@notosoken.jp
営業時間 10:00～18:00 ※土日祝・年末年始を除く

セミナー内容

農福連携に興味のある方々に向け、【総論】【福祉団体】【農業者】【企業等】の各観点から、講師による基礎的な内容や具体的な事例までがわかるWEBセミナーを開催します。

1 【総論】
農業関係者、福祉関係者、障がい者、保護者目線からみた農福連携
酪農学園大学
(北海道江別市)教授　義平 大樹 氏

2 【福祉団体による取組】
フラワーパッケージセンターの地域に密着した農福連携の取組
社会福祉法人ハイジ福祉会
(福岡県八女市)施設長　山口 隆充 氏

3 【農業者による取組】
農業が果たす地域福祉への関わり方
株式会社耕野
(岩手県花巻市)代表取締役　安藤 誠二 氏

4 【企業による取組】
「ありがとう」の気持ちを込めて
～私たちの農福連携～
はーとふる川内株式会社(徳島県板野郡北島町)
代表取締役社長　山田 圭吾 氏

5 **農林水産省からの情報提供**

6 **ワークシート&フィードバック**
本セミナーで得た知識を整理し、考えを深めるためのワークと、義平氏によるフィードバックの時間をご用意しております。

※セミナーの内容は予告なく変更する場合がございます。

主催：株式会社農都共生総合研究所

左から山口氏、安藤氏、山田氏、義平氏

認知度向上 web セミナー②
開催日時　2023 年 8 月 22 日（火）13:00～16:00
オンライン開催
申込数：305 件　参加者数：182 人

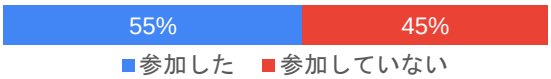
農林水産省
八巻課長補佐　福田調整員

申込者の職業（回答298人）

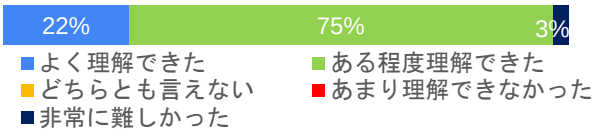
実施後アンケート

年齢（回答79人）

第１回目のセミナーにご参加（回答80人）

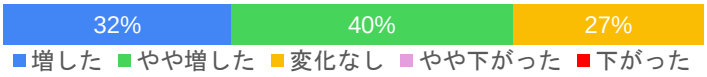


はじめての参加で理解度は？（回答36人）



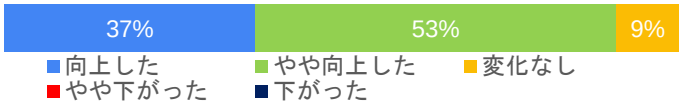
農福連携の取組状況（回答75人）

取組意欲（回答77人）

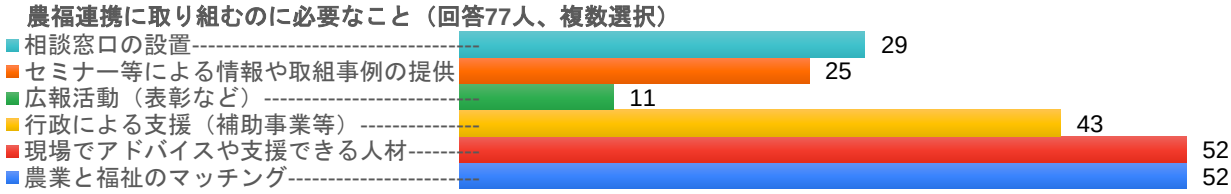


セミナー内容の満足度（回答79人）

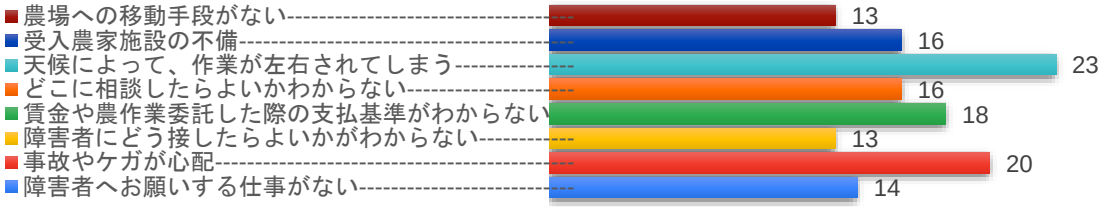
2回目で１回目より理解度は？（回答43人）



農福連携に取り組むのに必要なこと（回答77人、複数選択）



農福連携に取り組むに当たって、主な課題（回答75人複数選択）



農福連携に期待すること（回答77人、複数回答）

農林水産省 令和5年度 農山漁村振興交付金事業

ノウフク

交付金の活用を
知りたいあなたへ。

参加募集中

農福連携
交付金活用セミナー

オンライン開催
参加費無料

2024 2月2日(金)

120分でわかる!

13:30〜15:30 ※13:00〜 受付開始

農山漁村振興交付金 農山漁村イノベーション対策（農福連携型）とは?

農福連携の一層の推進に向け、障害者等の農林水産業に関する技術習得、農業体験を提供するユニバーサル農園の開設、作業に携わる生産・加工・販売施設の整備等を支援します。

受講対象

- 農山漁村振興交付金 農山漁村イノベーション対策（農福連携型）に興味ある方全般
- 農福連携に係る障害者施設の開設を検討されている方

開催方法 オンライン

zoomURLをお申込後にご連絡申し上げます。

*リアルタイム視聴が難しい場合も、お申込者へは後日アーカイブ用URLをお送りします。

応募締切 2024年1月31日(水)

お問い合わせ

noufuku@notosoken.jp

お申込はこちらから ▶

講演内容

農山漁村振興交付金 農山漁村イノベーション対策（農福連携型）に関心ある方へ向けて、過去に採択された農業者・福祉団体の事業者による事例発表と、農林水産省による概要説明を行います。また、厚生労働省による農福連携に関する事業の情報提供を行います。

01 農業者による事例

「作業効率向上と就労者の自信創出及び収益拡大を実現」

株式会社希望ファーム 代表取締役

白石 拓麻 氏

農山漁村振興交付金を活用し、ピーマン栽培における農作業等の作業効率を向上し、就労者の技術習得と自信の創出を実現。販路拡大と通年業務による収益拡大にも取り組んでいます。

02 福祉団体による事例

「ジェラート加工販売等の6次産業化と農業法人設立を実現」

株式会社リーフエッチ 代表取締役社長

田中 基次 氏

農山漁村振興交付金を活用し、労働対価として得た果物をジェラートに加工・販売という6次産業化を実現。就労希望者の雇用のために農業法人を設立し、昨今ではアグリツーリズムにも取り組んでいます。

03 農林水産省からの概要説明について

04 厚生労働省からの農福連携に係る支援について

*セミナー内容は予告なく変更する場合がございます。

主催：株式会社農都共生総合研究所

厚生労働省小松係長　　農林水産省青木係員

白石氏

田中氏

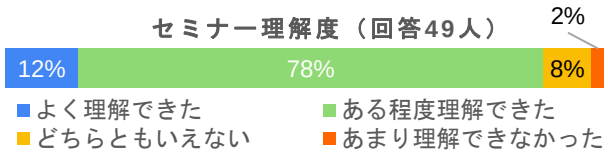
交付金活用セミナー
開催日時：2024 年 2 月 2 日（火）13:00～16:00
開催方法：オンライン
申込数：213 件
参加者数：158 人

申込者の職業（回答212人）

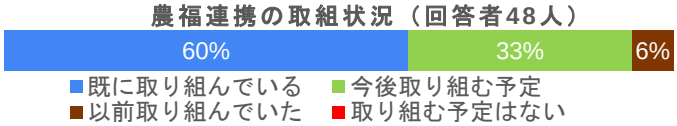
実施後アンケート

年齢（回答50人）

セミナー理解度（回答49人）



農福連携の取組状況（回答者48人）

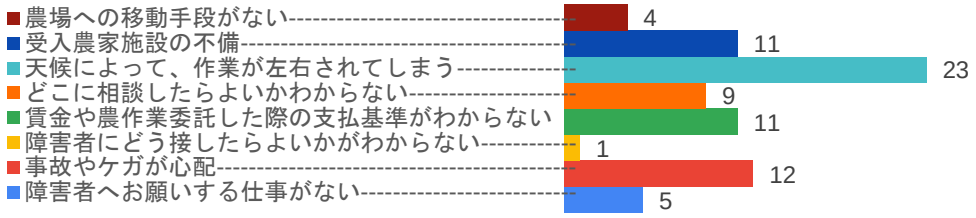


セミナー満足度（回答50人）

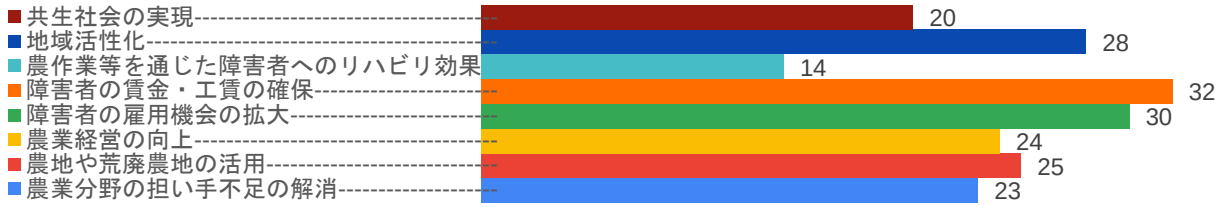
取組意欲（回答者50人）

農福連携に取り組むのに必要なこと（回答50人、複数選択）

農福連携に取り組むに当たって、主な課題（回答44人、複数選択）



農福連携交付金に期待すること（回答50人、複数選択）



農福連携 魅力物語 MAP in 北海道

『農福連携フォーラム&マルシェin北海道』では、魅力ある様々な取組が大集合!
北海道のさまざまな地域で、農業を通じて障害者などが働く場所や居場所をつくっている取組をご紹介します。

農福連携の魅力ある取組の詳細は右のQRコードからご覧ください。

共働学舎 新得農場
所在地:上川郡新得町
農福連携フォーラム講演者 / 農福連携マルシェ
就労に困難を抱える人々を受け入れ、一緒に活躍していくソーシャルファームの草分け的存在として、ノウフク・アワード2022でグランプリを受賞。畜産、野菜を主として、チーズ等の加工や6次産業化にも取り組み売店・カフェを経営しており、チーズでは、国際的な賞も受賞している。
ホームページ

NPO法人 サトニクラス
所在地:樺戸郡月形町
農福連携フォーラムパネリスト / 農福連携マルシェ
障害特性に応じてチームを編成し、野菜生産から漬物製造・販売までを一貫して行うことで、安定した通年作業を実現。漬物原料用野菜の自家栽培や漬物等の製造、直売所の運営のほか、冬場の除雪作業の受託を行うなど、障害者の働く場の創出に加えて、地域を支える存在としての役割も担っている。
ホームページ

社会福祉法人 ゆうゆう
所在地:石狩郡当別町
農福連携フォーラムパネリスト
障害者や認知症高齢者等、誰もが集い活躍できる場としてのレストランや、「農業×福祉」・「アート×学校」を複合させ、成人期の障害者における生活・余暇・就労活動のサポートを行う生活介護事業所の運営など、様々なプロジェクトに取り組んでいる。
ホームページ

合同会社 カレイドスコープ
所在地:札幌市北区
農福連携マルシェ
人手の足りない農家と人はいるけど仕事がない福祉事業所とが、農福連携コーディネーターのもとで連携を行ない、年間を通して園床でキクラゲ等を栽培し、販売・加工も行なっている。
ホームページ

札幌刑務所
所在地:札幌市東区
農福連携マルシェ
構外作業として、農業活動を行う。馬鈴薯・玉ねぎ・さつまいも・枝豆・落花生・スイートコーン・牧草等を栽培している。
ホームページ

多機能型事業所び～か～ぶ～WORKS(就労A型・就労B型)
所在地:札幌市
農福連携マルシェ
同事業所は長沼町に3反ほどの自社農場を設けており、事業所内には加工場を設けている。生産・加工・販売(6次化産業)を全て自社で行い、様々なイベントや道の駅、スーパーなどで販売。11月には子ども食堂がオープン予定。
ホームページ

株式会社 エムリンク夢ケア 就労支援事業所リプラぴあ～の
所在地:北見市
農福連携マルシェ
全ての人が穏やかで尊厳のある暮らしが営めるようサポートを行なう。手作りごぼう茶を製造している他、焙煎コーヒー豆の製造、じゃがいも・玉ねぎ・ミニトマト等の栽培、カフェでの接客業務等、幅広く行なっている。
ホームページ

株式会社 九神ファームめむろ
所在地:河西郡芽室町
農福連携フォーラムパネリスト
ジャガイモ、カボチャ、小豆の栽培や、ジャガイモの皮むき、カット、真空パック包装などの1次処理加工を行なっている。生産・加工した農作物を出資企業が100%購入・展開することで、収益の安定化や障がい者の安定的かつ継続的な雇用や企業価値の向上を実現。
ホームページ

社会福祉法人 空知の風
所在地:岩見沢市
農福連携マルシェ
知的に障がいのある方達の地域生活支援・就労支援を通じて、利用者個々の自己実現を目指す社会福祉法人。パン製造、菓子製造、昼食製造、創作活動等を行なっている。
ホームページ

社会福祉法人 新冠ほくと園
所在地:新冠郡新冠町
農福連携マルシェ
知的障害者の方を対象とした日中活動支援や就労活動支援、利用者一人ひとりにあった基本的生活習慣・社会生活支援や訓練・健康への支援を行なう。お菓子・パンの製造から販売や、町内の企業での実習支援などを行い、地域で生活するための訓練や生活体験に尽力。
ホームページ

社会福祉法人 北海道光生会
所在地:美唄市
農福連携マルシェ
1964年開設の知的障害児施設「美唄学園」を前身に、設立以来、主に知的障害のある方達の社会自立の支援を行う。障害のある方達の「住む」「働く」「楽しむ」「その人(あなた)らしく」を支援し、地域社会への理解と交流を進めている。
ホームページ

※農福連携マルシェ出店者は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

左から、川辺（農都）、小泉氏、且田氏、錦織氏、楠氏、宮嶋氏

農福連携フォーラム in 北海道

【会場】ASTY45 中研修室 1206（札幌市中央区北４条西５丁目アスティ 45 12F）
【日時】2023/9/8(金)13:00~16:00
【申込】現地：17 人　オンライン：62 人　【当日】オンライン：54 人

申込者の職業（回答79人）

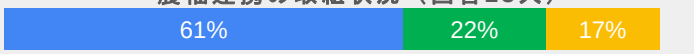
フォーラム実施後アンケート

フォーラムの理解度（回答22人）

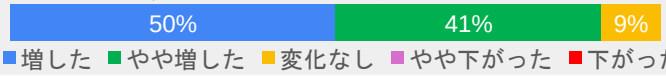
フォーラム内容の満足度(回答22人)

年齢（回答23人）

農福連携の取組状況（回答23人）



農福連携の取組意欲（回答22人）

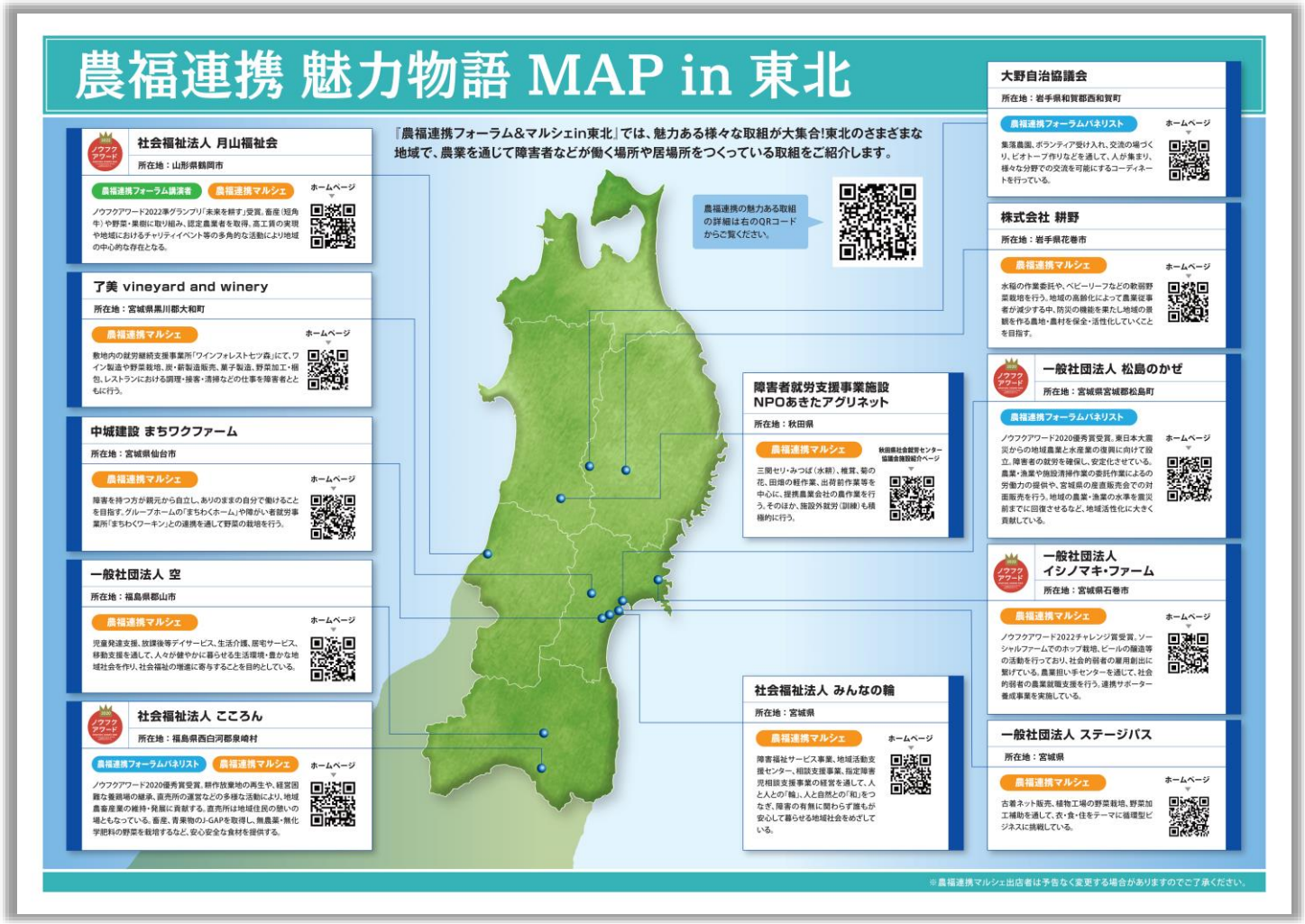


農福連携マルシェ in 北海道
会場：札幌駅前通地下広場
出店数：９事業者

「農福連携」街頭認知度調査（回答123人）

MARCHE
農福連携マルシェ in 東北
仙台開催
2023 9/22(金) 10:00~17:00
～農福連携魅力物語～
東北農福連携の魅力が満載!農業と福祉がつながって、人も地域も元気になる。そんな農福連携の現場で丁寧に育てられた農産物等と、それらを活用した美味しい加工品が東北各地から大集合!!9月22日10時より、AER(アエル)2階アトリウムにてマルシェを開催します!!!
皆様のご来場を心よりお待ち申し上げています。
※都合により変更になる場合がございます。
場所▶AER(アエル) 2階アトリウム
宮城県仙台市青葉区中央1丁目3-1
AER (アエル)
農福連携フォーラムも同時開催!
SS30 第1・2会議室
宮城県仙台市青葉区中央4丁目6番1号にて13時～16時まで開催しています!(裏面参照!)
※写真はイメージです。
参加事業者と商品(予定)
1 社会福祉法人 月山福祉会(山形県) 手作りジャム、ワンちゃんビスケット、乾燥しいたけ、落花生 など
2 社会福祉法人 こころん(福島県) たまねぎ、きくいも、さやえんどう、オクラ、料理酒、卵、ケーキ、クッキー、プリン など
3 一般社団法人 空(福島県) トマト、ぶどう、大豆、さつまいも、なめこ、舞茸、ひらたけ、味噌 など
4 一般社団法人 イシノマキ・ファーム(宮城県) クラフトビール(巻風エール)、ホップソルト(巻風ホップソルト) など
5 中城建設 まちワクファーム(宮城県) めんこちゃんにんにく など
6 了美 vineyard and winery(宮城県) ワイン、黒ニンニク、ガーリックオイル など
7 株式会社 耕野(岩手県) 米・業物野菜など
8 社会福祉法人 みんなの輪(宮城県) 野菜・ジャム・米粉クッキー・乾燥糸こんにゃく ほか
9 一般社団法人 ステージバス(宮城県) ホワイトセロリ、サラダほうれん草、ルッコラ、ミックスレタス、青パパイヤ など
10 障害者就労支援事業施設 NPOあきたアグリネット(秋田県) 三関セリ・みつば(水耕)、椎茸、菊の花 など
※出店者の魅力ある取組の詳細はそれぞれのQRコードからご覧ください。
※マルシェの内容は、予告なく変更する場合がございます。
主催:株式会社農都共生総合研究所 後援:東北農政局

農林水産省 令和5年度 農山漁村振興交付金事業
ノウフク
農福連携フォーラム in 東北
～農福連携魅力物語～
仙台開催
agriculture-welfare-collaboration
2023 9/22(金) 13:00~16:00
参加費無料
農福連携の魅力とは?
障害者等の就労の場の創出だけではなく、農業従事者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等が期待でき、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。
農福連携の現場には、いきいきと農業に取り組む人々や、人と人とのつながり、そして丹精込めて育てられた農産物やそれらの付加価値を高める加工品など、多彩な魅力があふれています。この機会に是非、東北の地域資源を活用した農福連携のさまざまな取組について学んでみませんか。
農福連携フォーラム
開催形式
ハイブリッド開催
(現地+オンライン参加)
現地▶SS30 第1・2会議室
宮城県仙台市青葉区中央4丁目6番1号
SS30
農福連携マルシェも同時開催!
AER(アエル) 2階アトリウム
宮城県仙台市青葉区中央1丁目3-1
10時～17時まで開催しています!(裏面参照!)
応募期間
9月19日(火)まで
定員
現地参加:50名 オンライン参加:300名以内
お問い合わせ
株式会社農都共生総合研究所
noufuku@notosoken.jp
お申込はこちら
※メールいただき次第2営業日以内に返信申し上げます。
フォーラム内容
ノウフクアワードに受賞・登場された方を中心に講演とパネルディスカッションを行います。
■講演
[テーマ]
「未来を耕す共生の牧場
～月山福祉会の農畜産事業と障がい者支援～」
2022ノウフク・アワード 準グランプリ(未来を耕す)
社会福祉法人 月山福祉会 理事長 石川一郎 氏
■パネルディスカッション
[テーマ]
東北の地域資源とつながりを活かした農福連携
2020ノウフク・アワード 優秀賞
・社会福祉法人 こころん 関根 考迪 氏
2020ノウフク・アワード 優秀賞
・一般社団法人 松島のかぜ 生活支援員 一ノ瀬 和恵 氏
・大野自治協議会 泉川 達也 氏
〈コーディネーター〉
宮城大学 佐々木秀之 准教授
※フォーラムの内容は、予告なく変更する場合がございます。
※登壇者の魅力ある取組の詳細はそれぞれのQRコードからご覧ください。
主催:株式会社農都共生総合研究所 後援:東北農政局


農福連携 魅力物語 MAP in 東北
『農福連携フォーラム&マルシェin東北』では、魅力ある様々な取組が大集合!東北のさまざまな地域で、農業を通じて障害者などが働く場所や居場所をつくっている取組をご紹介します。
農福連携の魅力ある取組の詳細は右のQRコードからご覧ください。
社会福祉法人 月山福祉会
所在地:山形県鶴岡市
農福連携フォーラム講演者 農福連携マルシェ
ノウフクアワード2022準グランプリ「未来を耕す」受賞。畜産(短角牛)や野菜・果樹に取り組み、認定農業者を取得、高工賃の実現や地域におけるチャリティイベント等の多角的な活動により地域の中心的な存在となる。
了美 vineyard and winery
所在地:宮城県黒川郡大和町
農福連携マルシェ
敷地内の就労継続支援事業所「ワインフォレストセツ森」にて、ワイン製造や野菜栽培、炭・薪製造販売、菓子製造、野菜加工・梱包、レストランにおける調理・接客・清掃などの仕事を障害者とともに行う。
中城建設 まちワクファーム
所在地:宮城県仙台市
農福連携マルシェ
障害を持つ方が親元から自立し、ありのままの自分で働けることを目指す、グループホームの「まちわくホーム」や障がい者就労事業所「まちわくワーキン」との連携を通して野菜の栽培を行う。
一般社団法人 空
所在地:福島県郡山市
農福連携マルシェ
児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護、居宅サービス、移動支援を通して、人々が健やかに暮らせる生活環境・豊かな地域社会を作り、社会福祉の増進に寄与することを目的としている。
社会福祉法人 こころん
所在地:福島県西白河郡泉崎村
農福連携フォーラムパネリスト 農福連携マルシェ
ノウフクアワード2020優秀賞受賞。耕作放棄地の再生や、経営困難な養鶏場の継承、直売所の運営などの多様な活動により、地域農畜産業の維持・発展に貢献する。直売所は地域住民の憩いの場ともなっている。畜産、青果物のJ-GAPを取得し、無農薬・無化学肥料の野菜を栽培するなど、安心安全な食材を提供する。
障害者就労支援事業施設 NPOあきたアグリネット
所在地:秋田県
農福連携マルシェ
秋田県社会就労センター協議会施設紹介ページ
三関セリ・みつば(水耕)、椎茸、菊の花、田畑の軽作業、出荷前作業等を中心に、提携農業会社の農作業を行う。そのほか、施設外就労(訓練)も積極的に行う。
社会福祉法人 みんなの輪
所在地:宮城県
農福連携マルシェ
障害福祉サービス事業、地域活動支援センター、相談支援事業、指定障害児相談支援事業の経営を通して、人と人との「輪」、人と自然との「和」をつなぎ、障害の有無に関わらず誰もが安心して暮らせる地域社会をめざしている。
大野自治協議会
所在地:岩手県和賀郡西和賀町
農福連携フォーラムパネリスト
集落農園、ボランティア受け入れ、交流の場づくり、ビオトープ作りなどを通して、人が集まり、様々な分野での交流を可能にするコーディネートを行っている。
株式会社 耕野
所在地:岩手県花巻市
農福連携マルシェ
水稲の作業委託や、ベビーリーフなどの軟弱野菜栽培を行う。地域の高齢化によって農業従事者が減少する中、防災の機能を果たし地域の景観を作る農地・農村を保全・活性化していくことを目指す。
一般社団法人 松島のかぜ
所在地:宮城県宮城郡松島町
農福連携フォーラムパネリスト
ノウフクアワード2020優秀賞受賞。東日本大震災からの地域農業と水産業の復興に向けて設立。障害者の就労を確保し、安定化させている。農業・漁業や施設清掃作業の委託作業によるの労働力の提供や、宮城県の産直販売会での対面販売を行う。地域の農業・漁業の水準を震災前までに回復させるなど、地域活性化に大きく貢献している。
一般社団法人 イシノマキ・ファーム
所在地:宮城県石巻市
農福連携マルシェ
ノウフクアワード2022チャレンジ賞受賞。ソーシャルファームでのホップ栽培、ビールの醸造等の活動を行っており、社会的弱者の雇用創出に繋がっている。農業担い手センターを通して、社会的弱者の農業就職支援を行う。連携サポーター養成事業を実施している。
一般社団法人 ステージバス
所在地:宮城県
農福連携マルシェ
古着ネット販売、植物工場の野菜栽培、野菜加工補助を通して、衣・食・住をテーマに循環型ビジネスに挑戦している。
ホームページ
※農福連携マルシェ出店者は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

左から川辺（農都）、佐々木氏、石川氏、小野崎氏、関根氏、一ノ瀬氏、泉川氏

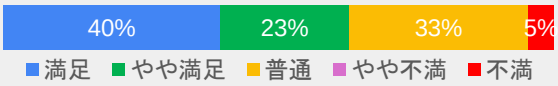
農福連携フォーラム in 東北
【会場】SS30 第 1・2 会議室（宮城県仙台市青葉区中央 4 丁目 6 番 1 号）
【日時】2023/9/22(金)13:00~16:00
【申込】現地：46 人　オンライン：69 人　【当日】オンライン：62 人

申込者の職業（回答114人）

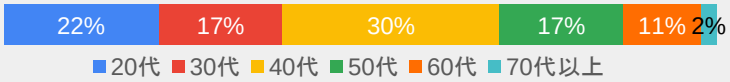
フォーラム実施後アンケート

フォーラム理解度（回答43人）

フォーラムの満足度（回答43人）



年齢（回答46人）



農福連携の取組状況（回答41人）

農福連携の取組意欲（回答42人）

農福連携マルシェ in 東北
会場：AER2 階アトリウム
出店数：10 事業者

『農福連携』街頭認知度調査（回答135人）

MARCHE
農福連携マルシェ in 北陸
金沢開催
～農福連携魅力物語～
2023 10/12(木) 10:00～17:00
北陸農福連携の魅力が満載!農業と福祉がつながって、人も地域も元気になる。そんな農福連携の現場で丁寧に育てられた農産物等と、それらを活用した美味しい加工品が北陸各地から大集合!!10月12日10時より、金沢駅東もてなしドーム地下広場にてマルシェを開催します!!!
皆様のご来場を心よりお待ち申し上げています。
＊都合により変更になる場合がございます。
場所▶ 金沢駅東広場もてなしドーム地下広場
石川県金沢市木ノ新保町2
金沢駅東広場もてなしドーム地下広場
農福連携フォーラムも同時開催!
TKP金沢新幹線口会議室 会議室3A
石川県金沢市堀川新町2-1 井門金沢ビル3階にて13時～16時まで開催しています!(裏面参照!)
＊写真はイメージです。
参加事業者と商品(予定)
1 株式会社 笠間農園(石川県) 小松菜、ほうれん草、小松菜どら焼き、小松菜のケーキ
2 こまつな菊ちゃんハウス(富山県) 小松菜、小松菜漬、梨を使った焼き菓子
3 ハーブ園ベザン(石川県) ハーブティー、ハーブソルト、ハーブジャム、ハーブソープ
4 社会福祉法人つばさの会 つばさ掏家(むすびや)(石川県) 米味噌、にんにくチップ、黒いニンニク、ドライミニトマト、ドライ鬼灯、乾燥トマトのカンパーニュ、お菓子ケーキ類、農林48号、焙煎玄米米粉麺、中能登町とりや味噌
5 農業生産法人 有限会社ファームファーム(富山県) 米
6 一般社団法人 土の香工房(新潟県) 乾燥野菜、ドライフルーツ、しそジュースキット、バジル塩糀、糀パウダー
7 CuRA!(チュラ)(新潟県) ハーブ加工品(ハーブソルト・ハーブ菓子・ハーブティー)、にいがた梅みそ、ハーブクラフト(モイストポプリ・サシェ)ほか
8 有限会社 あわら農楽ファーム(福井県) 米
9 株式会社 愛昴(あいすまる)(石川県) 米粉ドーナツ、メンマ、ジンジャーシロップ、紅い大豆の味噌
出店者の魅力ある取組の詳細は右の二次元バーコードからご覧ください。
※マルシェの内容は、予告なく変更する場合がございます。
主催：株式会社農都共生総合研究所

農林水産省 令和5年度農山漁村振興交付金事業
ノウフク
農福連携フォーラム ～農福連携魅力物語～ in 北陸
金沢開催
agriculture-welfare-collaboration
2023 10/12(木) 13:00～16:00
参加費無料
農福連携の魅力とは？
障害者等の就労の場の創出だけではなく、農業従事者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等が期待でき、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。
農福連携の現場には、いきいきと農業に取り組む人々や、人と人とのつながり、そして丹精込めて育てられた農産物やそれらの付加価値を高める加工品など、多彩な魅力があふれています。この機会に是非、北陸の地域資源を活用した農福連携のさまざまな取組について学んでみませんか。
農福連携フォーラム
開催形式
ハイブリッド開催
(現地＋オンライン参加)
現地▶ TKP金沢新幹線口会議室 会議室3A
石川県金沢市堀川新町2-1 井門金沢ビル3階
農福連携マルシェも同時開催!
金沢駅東広場もてなしドーム地下広場
石川県金沢市木ノ新保町2
10時～17時まで開催しています!(裏面参照!)
応募期間
10月6日(金)まで
定員
現地参加：50名 オンライン参加：300名以内
お問い合わせ
株式会社農都共生総合研究所
noufuku@notosoken.jp
※メールいただき次第2営業日以内に返信申し上げます。
お申込はこちら▶
フォーラム内容
ノウフクアワードに受賞・登壇された方を中心に講演とパネルディスカッションを行います。
■ 講演
【テーマ】
多様な人財と共に働き、地域を活性化
～農福連携の魅力～
ノウフク・アワード2022 優秀賞
株式会社 笠間農園 取締役 笠間 令子氏
■ パネルディスカッション
【テーマ】
農業と福祉のニーズをつなぐマッチングの仕組み
～農福連携からユニバーサル農園への展開～
ノウフク・アワード2022 フレッシュ賞
・JA金沢市 担い手支援室 室長 押田 哲男氏
ノウフク・アワード2020 優秀賞
・NPO法人ピアファーム 理事長 林 博文氏
・こまつな菊ちゃんハウス 代表 菊岡 進氏
・子育て農業応援団 団長 山本 実千代氏
(コーディネーター) 農研機構西日本農業研究センター 中本 英里氏
※フォーラムの内容は、予告なく変更する場合がございます。
＊登場者の魅力ある取組の詳細は右の二次元バーコードからご覧ください。
主催：株式会社農都共生総合研究所

農福連携 魅力物語 MAP in 北陸
『農福連携フォーラム&マルシェin北陸』では、魅力ある様々な取組が大集合!
北陸のさまざまな地域で、農業を通じて障害者などが働く場所や居場所をつくっている取組をご紹介します。
農福連携の魅力ある取組の詳細はホームページからご覧ください。
こまつな菊ちゃんハウス
所在地：富山県射水市
農福連携フォーラムパネリスト 農福連携マルシェ
実習生として障がい者を受け入れ、こまつなを中心に周年栽培を行う。ベテラン従業員が共に作業し、障害者を温かく見守る環境を構築。障がい者が健常者と現概なく作業し、大きな戦力となっている。
社会福祉法人 つばさの会 つばさ掏家(むすびや)
所在地：石川県鳳島郡中能登町
農福連携マルシェ
自然栽培を中心に、自然と共存しながら育んだ穀物、野菜、燒炭の制作や、添加物などを使用せずに製造した味噌、乾燥野菜などの加工品の販売を行う。
ハーブ園ベザン
所在地：石川県河北郡津幡町
農福連携マルシェ
無農薬・無化学肥料でハーブを栽培、生産物の加工・販売まで行い、障がい者の通年雇用の機会を創出。中山間地域の耕作放棄地解消への取組も行う。農家と福祉事業所向けに農福連携の助言・指導も実施。
株式会社 笠間農園
所在地：石川県河北郡内灘町
農福連携フォーラム講演者 農福連携マルシェ
ノウフク・アワード2022優秀賞受賞。障害者の施設外就労を通じて、工賃の向上を実現する他、収穫体験と食育活動の実施など、地域との交流も積極的に行う。笠間令子氏は、石川県の農福連携促進アドバイザーとして農家と福祉施設のマッチング支援を行い、県内の農福連携の普及にも注力している。
NPO法人 ピアファーム
所在地：福井県あわら市
農福連携フォーラムパネリスト
ノウフク・アワード2020優秀賞受賞。耕作放棄地の再生や梨園の農業の課題解決、障害者就労の場づくりとして梨とぶどうの栽培を行う。直売所での販売を通じて高工賃を実現する。アジアGAP認証取得。
CuRA!(チュラ)
所在地：新潟県新潟市
農福連携マルシェ
ノウフク・アワード2021フレッシュ賞受賞。「一から全て」「一流のものを一流のお店に使ってもらう」ことをコンセプトに、無肥料・無農薬で栽培し、加工・販売までの全工程を農福連携で行う。
一般社団法人 土の香工房
所在地：新潟県上越市
農福連携マルシェ
枝豆、ハーブ、さつまいもなどを生産し、加工品の製造を通して6次産業化を推進。地域ブランド「メイド・イン上越」を掲げ、農産品の販売を通じた地域活性化に取り組む。
株式会社 愛昴(あいすまる)
所在地：石川県河北郡津幡町
農福連携マルシェ
障害者の就労支援事業として、生活の基本となる"農"と"食"をコンセプトに近隣農業者への施設外就労を実施。米粉ドーナッツや国産メンマの製造・販売を行い、工賃の向上を実現。
農業生産法人 有限会社ファームファーム
所在地：富山県富山市
農福連携マルシェ
障がい者や不登校・引きこもりの若者たちの就労の場として、農作業・農作物販売を通して、自立支援の環境づくりに取り組む。就労支援と地域の方の憩いの場を目的とし、レストランを運営する。
JA金沢市
所在地：石川県金沢市
農福連携フォーラムパネリスト
ノウフク・アワード2022フレッシュ賞受賞。農業や集出荷場と福祉事業所とのマッチングを媒介し、作業内容や労働条件等の確認を行う他、マッチング後の継続的な連携に向けた支援を行う。
子育て農業応援団
所在地：石川県金沢市
農福連携フォーラムパネリスト
子育てをする親たちが孤立することなく、畑の活動を通して金沢の暮らしを楽しみ、気軽に相談しあえる場所を作っている。「食べること」は「生きること」という考えから活動を行っている。
有限会社 あわら農楽ファーム
所在地：福井県あわら市
農福連携マルシェ
米を中心に、大豆・そば・柿・いちご・メロン・さつまいも等を生産し、加工・販売を行う。観光いちご園等にも取り組む。また、農業規模に合わせた農機具の販売・修理・修繕を行う。
ホームページ
※農福連携マルシェ出店者は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

左から笠間氏、押田氏、菊岡氏、山本氏、林氏

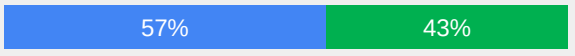
農福連携フォーラム in 北陸

【会場】TKP 金沢新幹線口会議室 会議室 3A（石川県金沢市堀川新町 2−1 井門金沢ビル 3 階）
【日時】2023/10/12(木)13:00~16:00
【申込】現地：40 人　オンライン：69 人　【当日】オンライン：62 人

申込者の職業（回答104人）

フォーラム実施後アンケート

フォーラム理解度（回答48人）



フォーラム内容の満足度（回答48人）

年齢（回答47人）

農福連携の取組状況（回答43人）

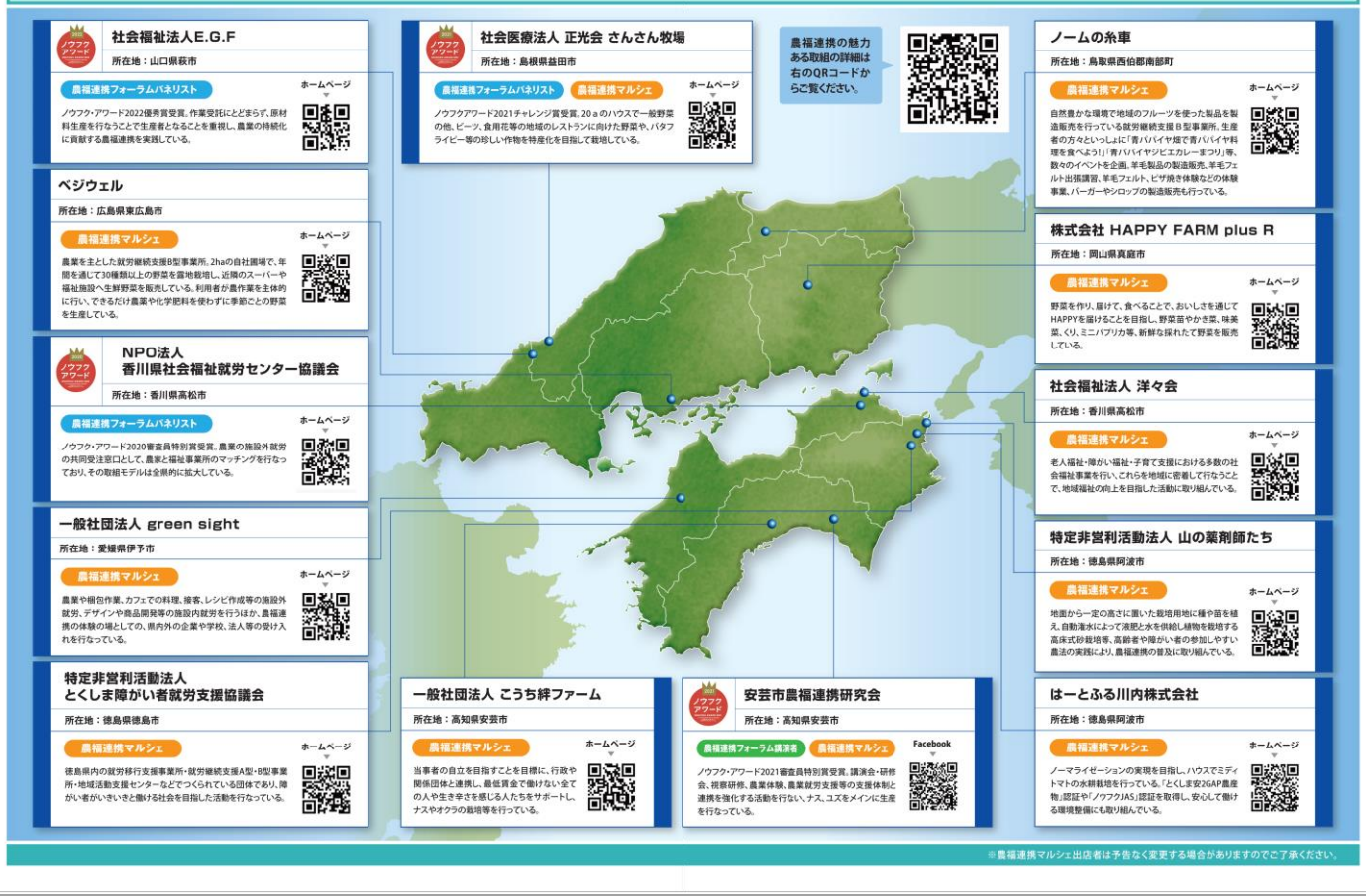
農福連携の取組意欲（回答47人）

農福連携マルシェ in 北陸
会場：金沢駅東もてなしドーム地下広場
出店数：９事業者

『農福連携』街頭認知度調査（回答63人）

農福連携 魅力物語 MAP in 中国四国

「農福連携フォーラム&マルシェin中国四国」では、魅力ある様々な取組が大集合!中国四国のさまざまな地域で、農業を通じて障害者などが働く場所や居場所をつくっている取組をご紹介します。



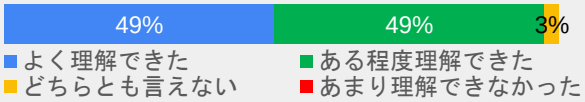
左から農都（川辺）、中本氏、公文氏、野稲氏、阿部氏、南氏

農福連携フォーラム in 中国四国
【会場】第一セントラルビル 3 号館 4F ローズマリー
（岡山県岡山市北区本町 6 番 30 号 第一セントラルビル 3 号館 4F）
【日時】2023/10/18(水)13:00~16:00
【申込】現地：24 人　オンライン：55 人【当日】オンライン：54 人

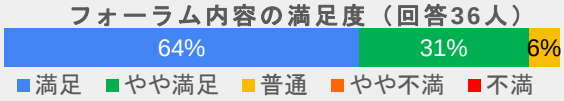
申込者の職業（回答79人）

フォーラム実施後アンケート

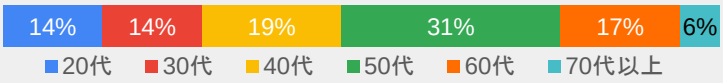
フォーラム理解度（回答37人）



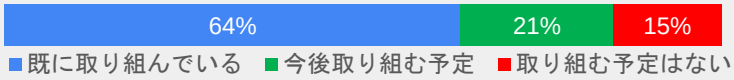
フォーラム内容の満足度（回答36人）



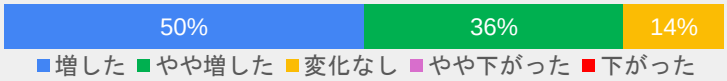
年齢（回答者36人）



農福連携の取組状況（回答33人）



農福連携の取組意欲（回答36人）



農福連携マルシェ in 中国四国
会場：イオンモール岡山 未来スクエア
出店数：11 事業者

『農福連携』街頭認知度調査（回答185人）

MARCHE

農福連携マルシェ in 近畿 京都開催

～農福連携魅力物語～

2023 10/26(木) 10:00～17:00

近畿農福連携の魅力が満載!農業と福祉がつながって、人も地域も元気になる。そんな農福連携の現場で丁寧に育てられた農産物等と、それらを活用した美味しい加工品が近畿各地から大集合!!10月26日10時より、イオンモールKYOTO Sakura館1階センターコートにてマルシェを開催します!!!皆様のご来場を心よりお待ち申し上げています。

＊都合により変更になる場合がございます。

場所 ▶ イオンモールKYOTO Sakura館1階センターコート
京都府京都市南区西九条鳥居口町1番地

農福連携フォーラムも同時開催!
TKPガーデンシティ京都タワーホテル
京都府京都市下京区東塩小路町721－1にて13時～16時まで開催しています!(裏面参照!)

※写真はイメージです。

参加事業者と商品(予定)

1. **株式会社 いずみエコロジーファーム**(大阪府) 小松菜、きゅうり、ほうれん草、春菊 ほか
2. **さんさん山城(社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会)**(京都府) 京都田辺茄子、濃茶大福、濃茶クッキー、「煤煙(京番茶)」、手摘み宇治抹茶「煤煙」、京甘利七味 ほか
3. **一般社団法人 禅農園 たすきファーム**(兵庫県) 黒枝豆、ベーグル、甘酒、野菜 ほか
4. **株式会社 NICOJAPAN 就労継続支援B型 ニコプレイス**(大阪府) 米・鹿肉ジャーキー(ペット用)・ドリップコーヒー ほか
5. **株式会社しんやさい**(京都府) 旬の野菜各種、みぞれ鍋つゆ、金時にんじんスムージー ほか
6. **社会福祉法人 京都ライフサポート協会**(京都府) 焼き菓子(シュトロイゼル、フィナンシェ、パウンドケーキ、パンなど)

出店者の魅力ある取組の詳細は下の二次元コードからご覧ください。

※マルシェの内容は、予告なく変更する場合がございます。

主催：株式会社農都共生総合研究所

農林水産省 令和５年度農山漁村振興交付金事業

農福連携フォーラム in 近畿 京都開催

～農福連携魅力物語～

2023 10/26(木) 13:00～16:00

参加費無料

農福連携の魅力とは？

障害者等の就労の場の創出だけではなく、農業従事者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等が期待でき、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。

農福連携の現場には、いきいきと農業に取り組む人々や、人と人とのつながり、そして丹精込めて育てられた農産物やそれらの付加価値を高める加工品など、多彩な魅力があふれています。この機会に是非、近畿の地域資源を活用した農福連携のさまざまな取組について学んでみませんか。

農福連携フォーラム

開催形式

ハイブリッド開催
(現地参加 ＋ オンライン参加)

現地 ▶ TKPガーデンシティ京都タワーホテル
京都府京都市下京区東塩小路町721－1

農福連携マルシェも同時開催!
イオンモールKYOTO Sakura館1階センターコート
京都府京都市南区西九条鳥居口町１番地
10時～17時まで開催しています!(裏面参照!)

応募期間
10月23日(月)まで

定員
現地参加：50名　オンライン参加：300名以内
※オンラインは、Zoom利用となります。

お問い合わせ
株式会社農都共生総合研究所
noufuku@notosoken.jp
※メールいただき次第2営業日以内に返信申し上げます。

お申込はこちら ▶

フォーラム内容

ノウフクアワードに受賞・登壇された方を中心に講演とパネルディスカッションを行います。

■ 講演

[テーマ]
いずみ市民と生協で耕す、いずみエコロジーファームの農福連携コープモデル
ノウフク・アワード2021 優秀賞
株式会社いずみエコロジーファーム 代表取締役社長
神崎 裕也 氏

[テーマ]
地域と繋がり、ふだんのくらしをしあわせに。さくらテラスの農福連携
医療法人 弘英会 さくらテラス デイサービス・グループホーム 管理者
小室 雅紀 氏

■ パネルディスカッション

[テーマ] **近畿の地域資源とつながりを活かした農福連携**

ノウフク・アワード2022 フレッシュ賞
・合同会社 三休 施設長
世古口 敦嗣 氏

ノウフク・アワード2021 チャレンジ賞
・社会福祉法人 太陽福祉会 菜の花作業所 農福連携担当
柏木 克之 氏

・NPO法人 緑活 代表
杉田 健一 氏

(コーディネーター)
神戸学院大学 菊川 裕幸 講師

※フォーラムの内容は、予告なく変更する場合がございます。

＊登壇者の魅力ある取組の詳細は右のQRコードからご覧ください。

主催：株式会社農都共生総合研究所

農福連携 魅力物語 MAP in 近畿

『農福連携フォーラム&マルシェin近畿』では、魅力ある様々な取組が大集合!
近畿のさまざまな地域で、農業を通じて障害者などが働く場所や居場所をつくっている取組をご紹介します。

農福連携の魅力ある取組の詳細は右の二次元コードからご覧ください。

社会福祉法人京都ライフサポート協会
所在地：京都府京田辺市
農福連携マルシェ　ホームページ
知的障がいのある方が地域の中で「ありのままに、あたりまえに、暮らし、はたらく」ことをサポートしている法人です。京都府南部の農園で、無農薬にこだわり、苺や野菜、苺などの栽培に取り組んでいます。

三休合同会社
所在地：京都府京田辺市
農福連携フォーラムパネリスト　ホームページ
ノウフク・アワード2022フレッシュ賞受賞。農業を中心に障害者が働く就労継続支援B型事業所で、万願寺とうがらしやハーブなどを中心に有機農法での栽培を行なっている。

株式会社 NICOJAPAN 就労継続支援B型 ニコプレイス
所在地：大阪府大阪市
農福連携マルシェ　ホームページ
野菜や米の栽培から袋詰めまでの一連の作業や、野菜のパウダーへの加工・販売、この他にも、接客や品出し、仕入れやアクセサリー作り、接客等を幅広く行なっている。

株式会社 いずみエコロジーファーム
所在地：大阪府和泉市
農福連携フォーラム講演者　農福連携マルシェ　ホームページ
ノウフク・アワード2021優秀賞受賞。小松菜、キュウリ、ほうれん草、春菊の生産行程に障害者が携わった生産方法でノウフクJAS認証を取得している。

社会福祉法人太陽福祉会
所在地：和歌山県御坊市
農福連携フォーラムパネリスト　ホームページ
ノウフク・アワード2021チャレンジ賞受賞。農水福連携で県内初の自然塩づくりを通して、地域との連携に取り組んでいる。

一般社団法人 禅農園 たすきファーム
所在地：兵庫県丹波篠山市
農福連携マルシェ　Instagram
地域の人から借りた田畑等で、黒大豆や山の芋、ミニトマト等を栽培するほか、多くの人と交流することを目的として、地場産、国産にこだわった素材でベーグルを製造している。

医療法人弘英会 さくらテラス デイサービス・グループホーム
所在地：滋賀県大津市
農福連携フォーラム講演者　ホームページ
自立・自律支援に力を入れ、地域の事業所や企業と連携して農作業の実践・販売・加工等を行なうことで、地域や社会との繋がりを持って活動している。

NPO法人 緑活
所在地：滋賀県栗東市
農福連携フォーラムパネリスト　ホームページ
「おもや農園」で無農薬・無肥料・無除草剤による自然栽培の野菜・いちじく・こんにゃく等を栽培し、これらを「オモヤキッチン」でランチやケーキに加工して販売している。

株式会社 しんやさい
所在地：京都府京都市
農福連携マルシェ　ホームページ
九条ねぎや聖護院大根、金時人参等の京野菜を中心とした多品目の 野菜を栽培している。また多様な人財を雇用、活躍しており、職場体験実習等も多数受け入れている。

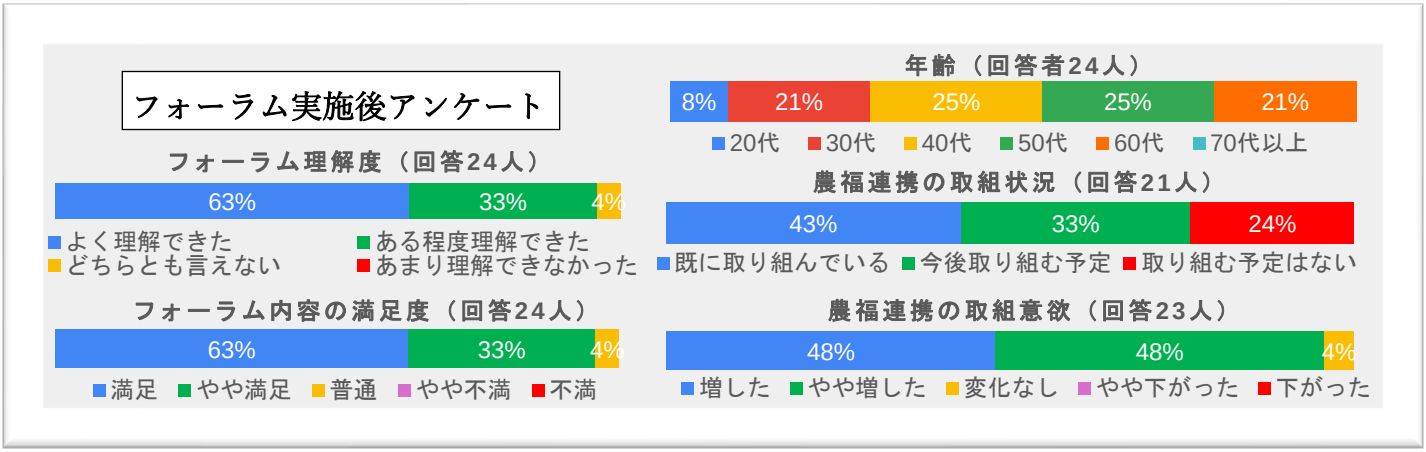
さんさん山城 (社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会)
所在地：京都府京田辺市
農福連携マルシェ　ホームページ
ノウフク・アワード2021グランプリ受賞。聴覚障害者が集い、宇治茶、京都えびいも、万願寺とうがらし、京都田辺なす等の地域特産物の栽培や加工食品製造、コミュニティカフェの運営等を行なっている。

※農福連携マルシェ出店者は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

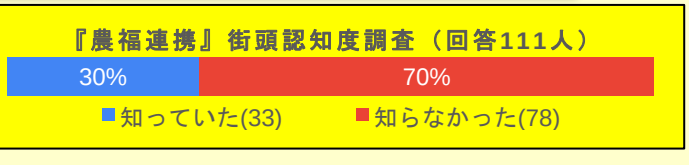
左から菊川氏、神崎氏、小室氏、世古口氏、柏木氏、杉田氏

農福連携フォーラム in 近畿

【会場】TKP ガーデンシティ京都タワーホテル（京都府京都市下京区東塩小路町 721−1 9 階 飛雲）
【日時】2023/10/26(木)13:00~16:00
【申込】現地：16 人　オンライン：34 人
【当日】オンライン：47 人

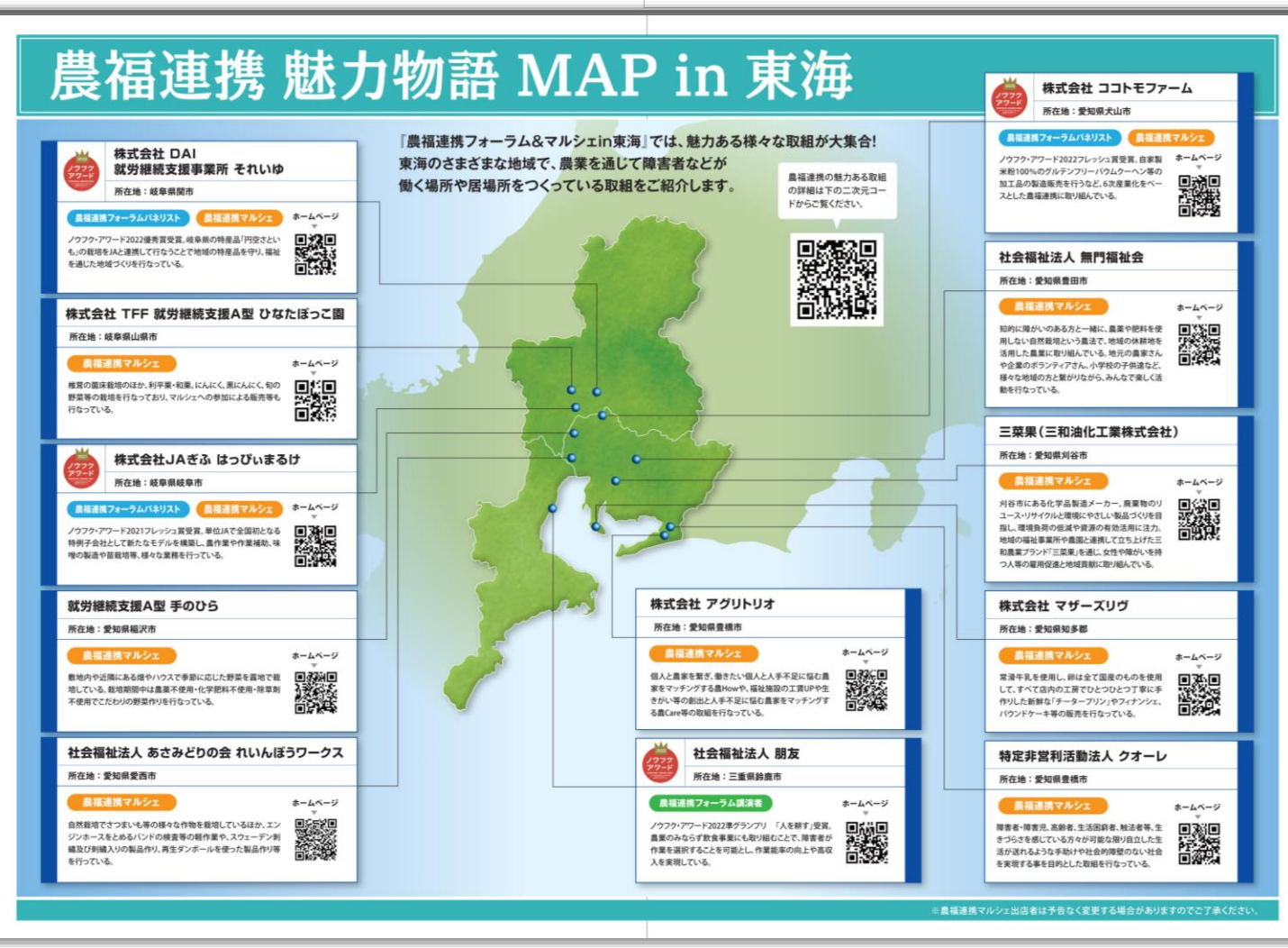


農福連携マルシェ in 近畿
会場：イオンモール KYOTO
出店数：６事業者



MARCHE
農福連携
マルシェ
in 東海
名古屋開催
～農福連携魅力物語～
2023
11/8(水)
10:00～
17:00
東海地域の農福連携の魅力が満載!農業と福祉がつながって、人も地域も元気になる。そんな農福連携の現場で丁寧に育てられた農産物等と、それらを活用した美味しい加工品が東海各地から大集合!!11月8日10時より、オアシス21にてマルシェを開催します!!!皆様のご来場を心よりお待ち申し上げています。
※都合により変更になる場合がございます。
場所▶ オアシス21
愛知県名古屋市東区東桜1丁目11－1
オアシス 21
銀河の広場
農福連携フォーラムも同時開催!
名古屋三交ビル ツドイコ名駅東カンファレンスセンター
愛知県名古屋市中村区名駅3丁目21－7
13時～16時まで開催しています!(裏面参照!)
※写真はイメージです。
参加事業者と商品(予定)
1 株式会社 ココトモファーム(愛知県) 米粉のバウムクーヘン ほか
2 株式会社 アグリトリオ(愛知県) 超濃厚いちごミルクの素、濃厚いちごミルクの素、日本ミツバチの濃厚ハチミツ
3 特定非営利活動法人 クオーレ(愛知県) 豊橋イチゴのプールドネージュ、田原市産花きのアレンジ ほか
4 就労継続支援事業所 それいゆ(岐阜県) 美濃蜜芋(干し芋・焼き芋)、黒にんにく、やさいぼりぼり(スナック菓子) ほか
5 株式会社JAぎふ はっぴいまるけ(岐阜県) まめなかな味噌、野菜、ハイビスカスティー、特別栽培米ハツシモ(新米) ほか
6 社会福祉法人 あさみどりの会 れいんぼうワークス(愛知県) さつまいも(紅はるか)、利用者の方の絵を活用したオリジナルデザインTシャツやバッグ、スウェーデン刺繍雑貨 ほか
7 株式会社 マザーズリヴ(愛知県) プリン(プレーン・塩キャラメル・抹茶・いちご・栗・みかん)、フィナンシェ(プレーン・塩)、パウンドケーキ(ブルーベリー・みかん・栗)、みかん ほか
8 株式会社 TFF 就労継続支援A型 ひなたぼっこ園(岐阜県) 菌床椎茸、乾燥椎茸、黒にんにく、旬の野菜 ほか
9 三菜果(三和油化工業株式会社)(愛知県) エディブルフラワー、ミニトマト、お菓子
10 社会福祉法人 無門福祉会(愛知県) 米、椎茸(有機)、季節の野菜(未定)、農産物加工品(カレー、せんべい、ジャム等) ほか
11 就労継続支援A型 手のひら(愛知県) 露地野菜 ほか
出店者の魅力ある取組の詳細は右の二次元コードからご覧ください。
※マルシェの内容は、予告なく変更する場合がございます。
主催：株式会社農都共生総合研究所

農林水産省 令和５年度農山漁村振興交付金事業
ノウフク
農福連携フォーラム
～農福連携魅力物語～
in 東海
名古屋開催
agriculture-welfare-collaboration
2023
11/8(水)
13:00～16:00
参加費無料
農福連携の魅力とは？
障害者等の就労の場の創出だけではなく、農業従事者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等が期待でき、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。
農福連携の現場には、いきいきと農業に取り組む人々や、人と人とのつながり、そして丹精込めて育てられた農産物やそれらの付加価値を高める加工品など、多彩な魅力があふれています。この機会に是非、東海の地域資源を活用した農福連携のさまざまな取組について学んでみませんか。
農福連携フォーラム
開催形式
ハイブリッド開催
（現地参加 ＋ オンライン参加）
現地▶ 名古屋三交ビル ツドイコ名駅東カンファレンスセンター Room D
愛知県名古屋市中村区名駅3丁目21－7
農福連携マルシェも同時開催!
オアシス21 銀河の広場
愛知県名古屋市東区東桜1丁目11－1
10時～17時まで開催しています!(裏面参照!)
応募期間
11月6日(月)まで
定員
現地参加：50名　オンライン参加：300名以内
※オンラインは、Zoom利用となります。
お問い合わせ
株式会社農都共生総合研究所
noufuku@notosoken.jp
※メールいただき次第2営業日以内に返信申し上げます。
お申込はこちら▶
フォーラム内容
ノウフクアワードに受賞・登壇された方を中心に講演とパネルディスカッションを行います。
■ 講演
[テーマ] 朋友の組織づくりと地域連携 ～人を耕す農福連携とは～
ノウフク・アワード2022 準グランプリ「人を耕す」
社会福祉法人 朋友 理事長 伊藤 良一氏
■ パネルディスカッション
[テーマ] 東海の地域資源とつながりを活かした農福連携
ノウフク・アワード2022 優秀賞 ・株式会社DAI 専務取締役 中島 望 氏
ノウフク・アワード2021 フレッシュ賞 ・株式会社JAぎふはっぴいまるけ 統括部長 髙橋 玲司氏
ノウフク・アワード2022 フレッシュ賞 ・株式会社ココトモファーム 代表取締役 齋藤 秀一 氏
（コーディネーター） 静岡県立農林環境専門職大学 講師 太田 智氏
※フォーラムの内容は、予告なく変更する場合がございます。
※登場者の魅力ある取組の詳細は右の二次元コードからご覧ください。
主催：株式会社農都共生総合研究所


農福連携 魅力物語 MAP in 東海
『農福連携フォーラム&マルシェin東海』では、魅力ある様々な取組が大集合!
東海のさまざまな地域で、農業を通じて障害者などが働く場所や居場所をつくっている取組をご紹介します。
農福連携の魅力ある取組の詳細は下の二次元コードからご覧ください。
株式会社 DAI 就労継続支援事業所 それいゆ
所在地：岐阜県関市
農福連携フォーラムパネリスト　農福連携マルシェ
ノウフク・アワード2022優秀賞受賞、岐阜県の特産品「円空さといも」の栽培をJAと連携して行なうことで地域の特産品を守り、福祉を通じた地域づくりを行なっている。
株式会社 TFF 就労継続支援A型 ひなたぼっこ園
所在地：岐阜県山県市
農福連携マルシェ
椎茸の菌床栽培のほか、利平栗・和栗、にんにく、黒にんにく、旬の野菜等の栽培を行なっており、マルシェへの参加による販売等も行なっている。
株式会社JAぎふ はっぴいまるけ
所在地：岐阜県岐阜市
農福連携フォーラムパネリスト　農福連携マルシェ
ノウフク・アワード2021フレッシュ賞受賞、単位JAで全国初となる特例子会社として新たなモデルを構築し、農作業や作業補助、味噌の製造や苗栽培等、様々な業務を行っている。
就労継続支援A型 手のひら
所在地：愛知県稲沢市
農福連携マルシェ
敷地内や近隣にある畑やハウスで季節に応じた野菜を露地で栽培している。栽培期間中は農薬不使用・化学肥料不使用・除草剤不使用でこだわりの野菜作りを行なっている。
社会福祉法人 あさみどりの会 れいんぼうワークス
所在地：愛知県愛西市
農福連携マルシェ
自然栽培でさつまいも等の様々な作物を栽培しているほか、エンジンホースをとめるバンドの検査等の軽作業や、スウェーデン刺繍及び刺繍入りの製品作り、再生ダンボールを使った製品作り等を行っている。
株式会社 ココトモファーム
所在地：愛知県犬山市
農福連携フォーラムパネリスト　農福連携マルシェ
ノウフク・アワード2022フレッシュ賞受賞、自家製米粉100%のグルテンフリーバウムクーヘン等の加工品の製造販売を行うなど、6次産業化をベースとした農福連携に取り組んでいる。
社会福祉法人 無門福祉会
所在地：愛知県豊田市
農福連携マルシェ
知的に障がいのある方と一緒に、農薬や肥料を使用しない自然栽培という農法で、地域の休耕地を活用した農業に取り組んでいる。地元の農家さんや企業のボランティアさん、小学校の子供達など、様々な地域の方と賑がりながら、みんなで楽しく活動を行なっている。
三菜果(三和油化工業株式会社)
所在地：愛知県刈谷市
農福連携マルシェ
刈谷市にある化学品製造メーカー、廃棄物のリユース・リサイクルと環境にやさしい製品づくりを目指し、環境負荷の低減や資源の有効活用に注力。地域の福祉事業所や農園と連携して立ち上げた三和農業ブランド「三菜果」を通じ、女性や障がいを持つ人等の雇用促進と地域貢献に取り組んでいる。
株式会社 アグリトリオ
所在地：愛知県豊橋市
農福連携マルシェ
個人と農家を繋ぎ、働きたい個人と人手不足に悩む農家をマッチングする農Howや、福祉施設の工賃UPや生きがい等の創出と人手不足に悩む農家をマッチングする農Care等の取組を行なっている。
株式会社 マザーズリヴ
所在地：愛知県知多郡
農福連携マルシェ
常滑牛乳を使用し、卵は全て国産のものを使用して、すべて店内の工房でひとつひとつ丁寧に手作りした新鮮な「チータープリン」やフィナンシェ、パウンドケーキ等の販売を行なっている。
社会福祉法人 朋友
所在地：三重県鈴鹿市
農福連携フォーラム講演者
ノウフク・アワード2022準グランプリ 「人を耕す」受賞。農業のみならず飲食事業にも取り組むことで、障害者が作業を選択することを可能とし、作業能率の向上や高収入を実現している。
特定非営利活動法人 クオーレ
所在地：愛知県豊橋市
農福連携マルシェ
障害者・障害児、高齢者、生活困窮者、触法者等、生きづらさを感じている方々が可能な限り自立した生活が送れるような手助けや社会的障壁のない社会を実現する事を目的とした取組を行なっている。
※農福連携マルシェ出店者は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

左から太田氏、高橋氏、中島氏、斎藤氏、伊藤氏

農福連携フォーラム in 東海

【会場】名古屋三交ビル ツドイコ名駅東カンファレンスセンター
（愛知県名古屋市中村区名駅３丁目２１－７）
【日時】2023/11/ 8(水)13:00~16:00
【申込】現地：13 人　オンライン：64 人　【当日】オンライン：68 人

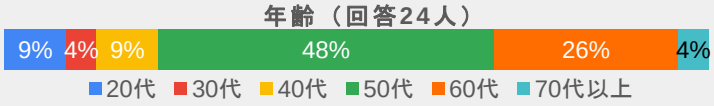
申込者の職業（回答76人）

フォーラム実施後アンケート

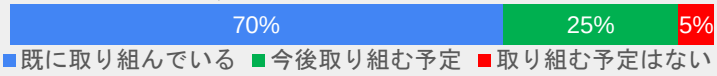
フォーラム理解度（回答22人）

フォーラム内容の満足度（回答22人）

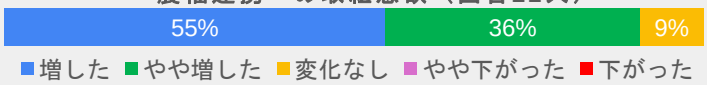
年齢（回答24人）



農福連携の取組状況（回答20人）

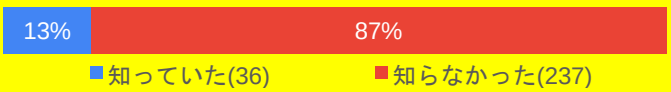


農福連携への取組意欲（回答22人）



農福連携マルシェ in 東海
会場：オアシス 21
出店数：11 事業者

『農福連携』街頭認知度調査（回答237人）



MARCHE

農福連携マルシェ in 九州 長崎開催

～農福連携魅力物語～

2023 12/7(木) 10:00～17:00

農福連携の魅力が満載!農業と福祉がつながって、人も地域も元気になる。そんな農福連携の現場で丁寧に育てられた農産物等と、それらを活用した美味しい加工品が九州各地から大集合!!12月7日10時より、長崎浜屋1階アーケードにてマルシェを開催します!!!皆様のご来場を心よりお待ち申し上げています。

＊都合により変更になる場合がございます。

場所▶ 長崎浜屋1階アーケード
長崎市浜町7番11号

農福連携フォーラムも同時開催!

出島メッセ長崎102
長崎県長崎市尾上町4－1
13時～16時まで開催しています!(裏面参照!)

※写真はイメージです。

参加事業者と商品(予定)

1. **社会福祉法人 南高愛隣会**(長崎県) アスパラガス茶、乾麺、チョコレート、ポップコーン ほか
2. **社会福祉法人 出島福祉村**(長崎県) びわ茶、珈琲、ジャム、クッキー、マフィン ほか
3. **大隅半島ノウフクコンソーシアム**(鹿児島県) お茶、ハーブティー、スイーツ ほか
4. **株式会社 誠晃**(鹿児島県) 米、しいたけ、温州みかん ほか
5. **南九州農福連携コンソーシアム**(宮崎県・鹿児島県・熊本県) ミニトマト、スティックセロール、ピーマン、ねぎ、赤唐辛子 ほか
6. **熊本県農福連携協議会**(熊本県) ミニトマト、かぼちゃ、スイスチャード、わけぎ、みかん ほか
7. **NPO法人熊本福祉会**(熊本県) いんげん、じゃがいも、ピーマン、かぼちゃ、スイスチャード ほか
8. **社会福祉法人 ハイジ福祉会**(福岡県) ミディトマト、ガーベラ ほか
9. **福岡少年院**(福岡県) 旬の野菜

出店者の魅力ある取組の詳細は下の二次元コードからご覧ください。

※マルシェの内容は、予告なく変更する場合がございます。

主催：株式会社農都共生総合研究所

農福連携フォーラム in 九州

～農福連携魅力物語～

agriculture-welfare-collaboration

長崎開催

農林水産省 令和５年度農山漁村振興交付金事業

2023 12/7(木) 13:00～16:00

参加費無料

ノウフク

農福連携の魅力とは？

障害者等の就労の場の創出だけではなく、農業従事者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等が期待でき、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。

農福連携の現場には、いきいきと農業に取り組む人々や、人と人とのつながり、そして丹精込めて育てられた農産物やそれらの付加価値を高める加工品など、多彩な魅力があふれています。この機会に是非、九州の地域資源を活用した農福連携のさまざまな取組について学んでみませんか。

農福連携フォーラム

開催形式

ハイブリッド開催
（現地参加 ＋ オンライン参加）

現地▶ **出島メッセ長崎102**
長崎県長崎市尾上町4－1

農福連携マルシェも同時開催!

長崎浜屋1階アーケード
長崎市浜町7番11号
10時～17時まで開催しています!(裏面参照!)

応募期間

12月4日(月)まで

定員

現地参加：50名　オンライン参加：300名以内
※オンラインは、Zoom利用となります。

お問い合わせ

株式会社農都共生総合研究所
noufuku@notosoken.jp
※メールいただき次第2営業日以内に返信申し上げます。

お申込はこちら ▶

フォーラム内容

ノウフクアワードに受賞・登場された方を中心に講演とパネルディスカッションを行います。

■ 講演

[テーマ]
南高愛隣会が問う真の「共生社会」とは～未来を耕す農福連携の実践～

ノウフク・アワード2020 審査員特別賞「人を耕す」

社会福祉法人 南高愛隣会 管理者
宇野 光央 氏

■ パネルディスカッション

[テーマ]
九州の地域資源とつながりを活かした農福連携

ノウフク・アワード2022 優秀賞
・社会福祉法人 出島福祉村 理事長
池田 賢一 氏

ノウフク・アワード2022 チャレンジ賞
・社会福祉法人 みやこ福祉会 理事長 総合施設長
伊志嶺 博司 氏

ノウフク・アワード2022 チャレンジ賞
・大隅半島ノウフクコンソーシアム 理事
今村 和也 氏　**結城 康文** 氏

（コーディネーター）
九州大学 准教授　**渡部 岳陽** 氏

■ 法務省からの情報共有

法務省福岡矯正管区更生支援企画課 課長
福原 健悟 氏
「再犯防止のための出所者等の居場所と出番づくり ～農福連携の活用～」

※フォーラムの内容は、予告なく変更する場合がございます。

＊登壇者の魅力ある取組の詳細は右の二次元コードからご覧ください。

主催：株式会社農都共生総合研究所

農福連携 魅力物語 MAP in 九州

『農福連携フォーラム&マルシェin九州』では、魅力ある様々な取組が大集合!
九州のさまざまな地域で、農業を通じて障害者などが働く場所や居場所をつくっている取組をご紹介します。

農福連携の魅力ある取組の詳細は右の二次元バーコードからご覧ください。

社会福祉法人 南高愛隣会

所在地：長崎県諫早市

農福連携フォーラム講演者　農福連携マルシェ

ノウフク・アワード2020審査員特別賞「人を耕す」受賞、独自の営農事業に加え、外部の農業法人や食品会社と積極的に連携し、牛・馬の飼育や養鶏、貸地・ビニールハウス販売、農繁期における農援隊事業等、地域に根をおろした多角的な農業を展開している。

社会福祉法人 出島福祉村

所在地：長崎県長崎市

農福連携フォーラムパネリスト　農福連携マルシェ

ノウフク・アワード2022優秀賞受賞、びわ茶の製造等、自家農園や地域で生産される農産物を利用した原料での加工品の開発・製造や、カフェレストラン・直売所の運営等を行なっている。

株式会社 誠晃

所在地：鹿児島県鹿児島市

農福連携マルシェ

障害者就労センターみなよし(A型)と就労支援センターリリーふ(B型)では「さらなる可能性への挑戦」を理念に除草を中心とした公共事業や自社生産された作物を用いたカフェを展開している。

大隅半島ノウフクコンソーシアム

所在地：鹿児島県大隅半島地域

農福連携フォーラムパネリスト　農福連携マルシェ

ノウフク・アワード2022チャレンジ賞受賞、大隅半島で農福連携を推進している団体を結びつける地域課題解決プラットフォームの役割を果たし、様々なプロジェクトを運営、大隅半島全体で農福連携を推進する団体を目指している。

社会福祉法人 みやこ福祉会

所在地：沖縄県宮古島市

農福連携フォーラムパネリスト

ノウフク・アワード2022チャレンジ賞受賞、通年で葉物野菜の水耕栽培を行ない、離島における野菜の安全生産体制の確立に加え、障害者の安定雇用を実現している。

福岡少年院

所在地：福岡県福岡市

農福連携マルシェ

福岡市南区にある、おおむね12歳から20歳までの非行のある男子少年を収容し、矯正教育や社会復帰支援等を行っている少年院。職業指導の一環として、院内の農園で農作物を作っている。

社会福祉法人 ハイジ福祉会

所在地：福岡県八女市

農福連携マルシェ

地元JAの花き部会傘下にある八女FPCガーベラ部と博多シンテッポウユリ部と外部委託契約を行い、ガーベラとユリのパッケージ作業を行っている。また耕作放棄地を購入し、法人としてJAの組合員資格を取得、ガーベラ・ミディトマトの生産を始めている。

NPO法人 熊本福祉会

所在地：熊本県熊本市

農福連携マルシェ

適材適所で働くことで皆が力を発揮して、誰もが対等に働くことのできる職場づくりを目指して、生花の出荷準備や大豆畑の管理、オクラの収穫等、様々な農作業を行なっている。

南九州農福連携コンソーシアム

所在地：宮崎県・鹿児島県・熊本県

農福連携マルシェ

今年の1月8日に設立しました。熊本・鹿児島・宮崎の南九州3県から全国に障がい者だけに限らず社会的弱者の就労機会の増加ややりがいに繋げる農福連携の振興に貢献していきたいと思います。

熊本県農福連携協議会

所在地：熊本県

農福連携マルシェ

熊本県農福連携協議会は今年の9月8日に設立しました。農村の多面的資源と農業の多様性及び多様な人材が輝き福祉力の発揮できる共生社会を実現し熊本県域での農業と福祉を結びつける地域ネットワークづくりに貢献していきたいと思います。

※農福連携マルシェ出店者は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

左から、渡部氏、宇野氏、池田氏、伊志嶺氏、今村氏、結城氏

農福連携フォーラム in 九州

【会場】出島メッセ長崎 102（長崎県長崎市尾上町４－１）
【日時】2023/12/7(木)13:00~16:00
【申込】現地：23 人　オンライン：83 人　【当日】現地：26 人　オンライン：60 人

申込者の職業（回答106人）

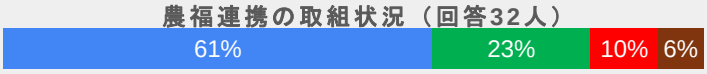
フォーラム実施後アンケート

フォーラム理解度（回答32人）

フォーラム内容の満足度（回答32人）

年齢（回答32人）

農福連携の取組状況（回答32人）



農福連携の取組意欲（回答31人）

農福連携マルシェ in 九州
会場：長崎浜屋１階アーケード
出店数：９事業者

『農福連携』街頭認知度調査（回答129人）

農林水産省令和5年度農山漁村振興交付金事業

MARCHE

ぼすくまが来るよ!

農福連携マルシェ in 関東 東京開催

2024 1/30(火) 11:00〜19:30

＊都合により変更になる場合がございます。

〜農福連携魅力物語〜

農福連携の魅力が満載!農業と福祉がつながって、人も地域も元気になる。そんな農福連携の現場で丁寧に育てられた農産物等と、それらを活用した美味しい加工品が関東・甲信各地から大集合!!皆様のご来場を心よりお待ちしています。

場所▶ KITTE 地下1階 東京シティアイ パフォーマンスゾーン
東京都千代田区丸の内2丁目7番2号

東京駅より地下道で直結

農福連携フォーラムも同時開催!
KITTE4階
JPタワー ホール&カンファレンス
カンファレンスルームA
東京都千代田区丸の内2丁目7番2号
13時〜16時半まで開催しています!
(裏面参照!)

※写真はイメージです。

参加事業者と商品(予定)

1. **社会福祉法人 ゆずりは会 菜の花**(群馬県)
ほうれん草、長ネギ、ブロッコリー、キャベツ、糀の甘酒、干し芋
2. **社会福祉法人 パステル**(栃木県)
桑の葉製品(桑うどん、桑パスタ、桑茶など)、桑の実ジャム、菓子類(桑フルーツパウンドケーキ、桑の葉・桑の実フィナンシェ など)
3. **有限会社照沼農園**(茨城県)
ハンサムグリーン、ハンサムレッド、ニューレタス、ベビーリーフ
4. **株式会社ウィズファーム**(長野県)
サンふじ、ノウフクりんごで作ったりんごジュース
5. **埼玉福興株式会社**(埼玉県)
水耕野菜、藍染ストール、藍のお茶、藍の焼き菓子
6. **社会福祉法人 土穂会 ピア宮敷**(千葉県)
食用ナバナ、いすみ産百花蜂蜜、ごま油、ラー油、ごまからちゃん、きなこ
7. **就労継続支援A型事業所 アスタネ**(埼玉県)
生シイタケ、乾燥シイタケ、菌床栽培セット
8. **社会福祉法人 くりのみ園**(長野県)
平飼いたまご、有機雪下にんじんジュース、カステラ、マフィン
9. **社会福祉法人 かしのみ福祉会**(山梨県)
山梨県産ドライフルーツ、山梨県産果物を使ったパウンドケーキ、飲めるゼリー など
10. **一般社団法人 都市農福を推進する会 エシカルベジタブルス八王子**(東京都)
カラフルニンジン、ビーツ、カラフルさつまいも、カラフル焼き芋
11. **就労継続支援B型事業所 みんなの広場「風」**(千葉県)
らっきょう、うどん、カボチャプリン、レモンケーキ、蒸しケーキ、ほうれん草、小松菜、茎ブロッコリー
12. **有限会社ココ・ファーム・ワイナリー**(栃木県)
各種ワイン、加工酢、乾燥スープ
13. **社会福祉法人 光友会**(神奈川県)
米(はるみ)、野菜(トマト、ほうれん草、さつま芋、きゅうり)、菓子パン各種、かわうそサブレ、ミックスクッキー
14. **一般社団法人 日本農福連携協会**(東京都)
農福クラフトビール、巻風ホップソルト、米粉ビスコッティ、ほうじ茶ティーバッグ、干し芋、焼き菓子、乾燥きくらげ、きくらげ佃煮
15. **特定非営利活動法人 たしざん**(東京都)
米粉パン・シフォンケーキ・クッキー
16. **社会福祉法人 進和学園**(神奈川県)
とまとジュース、みかんジュース、パン(湘南みかんぱん、など)、クッキー

出店者の魅力ある取組の詳細は下の二次元バーコードからご覧ください。

※マルシェの内容は、予告なく変更する場合がございます。

主催:株式会社農都共生総合研究所　協力:一般社団法人日本農福連携協会

農林水産省 令和5年度農山漁村振興交付金事業

ノウフク

農福連携フォーラム in 関東 〜農福連携魅力物語〜 東京開催

agriculture-welfare-collaboration

2024 1/30(火) 13:00〜16:30

参加費無料

農福連携の魅力とは?

障がい者等の就労の場の創出だけではなく、農業従事者の減少等の課題を抱える農業にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化が期待でき、「農業」と「福祉」双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。

農福連携の現場には、いきいきと農業に取り組む人々や、人と人とのつながり、そして丹精込めて育てられた農産物やそれらの付加価値を高める加工品など、多彩な魅力があふれています。この機会に是非、関東・甲信の地域資源を活用した農福連携の取組について学んでみませんか。

特別講演「ノウフクの夢」
一般社団法人 日本農福連携協会 会長理事
皆川 芳嗣氏

農福連携フォーラム

開催形式

ハイブリッド開催
(現地参加 + オンライン参加)

現地▶ KITTE4階
JPタワー ホール&カンファレンス
カンファレンスルームA
東京都千代田区丸の内2丁目7番2号

農福連携マルシェも同時開催!
KITTE地下1階 東京シティアイ パフォーマンスゾーン
東京都千代田区丸の内2丁目7番2号
11時〜19時半まで開催しています!
(裏面参照!)

定員

現地参加:100名　オンライン参加:300名以内
※オンラインは、Zoom利用となります。

お問い合わせ

株式会社農都共生総合研究所
noufuku@notosoken.jp

お申込はこちら ▶

フォーラム内容

ノウフクアワード受賞者による講演とパネルディスカッションを行います。

■ 講演

【テーマ】
農福連携を地域資源に
〜ゆずりは会 菜の花による高工賃の実現〜

ノウフク・アワード2022 グランプリ
社会福祉法人ゆずりは会 菜の花
管理者・サービス管理責任者
小淵 久徳氏

■ パネルディスカッション

【テーマ】
関東の地域資源とつながりを活かした農福連携

ノウフク・アワード2022 準グランプリ「地域を耕す」
・社会福祉法人パステル理事長
CSWおとめ管理者
石橋 須見江氏

ノウフク・アワード2022 優秀賞
・株式会社サンファーマーズ
福祉農業部長
山崎 隼人氏

ノウフク・アワード2022 フレッシュ賞
・有限会社照沼農園 代表取締役
照沼 洋平氏

(コーディネーター)
東京農業大学 教授　**町田 怜子**氏

※フォーラムの内容は、予告なく変更する場合がございます。

＊登壇者の魅力ある取組の詳細は右の二次元コードからご覧ください。

主催:株式会社農都共生総合研究所　協力:一般社団法人日本農福連携協会

農福連携 魅力物語 MAP in 関東

『農福連携フォーラム&マルシェin関東』では、魅力ある様々な取組が大集合!関東・甲信・静岡のさまざまな地域で、農業を通じて障がい者などが働く場所や居場所をつくっている取組をご紹介します。

農福連携の魅力ある取組の詳細は右の二次元コードからご覧ください。

社会福祉法人 くりのみ園
所在地:長野県小布施町
農福連携マルシェ
社会福祉法人として全国初の認定農業者を取得。北信濃の大地の恵みあふれる豊かな自然環境の下でオーガニックの福祉農園を運営している。平飼い養鶏と自然循環農法で地域農業に貢献し、「安心安全な食」の提供を通じて障がいのある人たちの自立と暮らしを支えている。

社会福祉法人ゆずりは会 菜の花
所在地:群馬県前橋市
農福連携フォーラム講演者
農福連携マルシェ
社会福祉法人ゆずりは会の運営する就労継続支援B型事業所菜の花がノウフク・アワード2022グランプリを受賞。同事業所の利用者25名は、毎日農業に携わり、様々な場面で活躍している。利用者の能力を引き出す作業環境を創出することで、昨年度の平均工賃は76,221円。群馬県下で最高水準の高工賃支給を実現している。

埼玉福興株式会社
所在地:埼玉県熊谷市
農福連携マルシェ
ノウフク・アワード2020優秀賞を受賞。福祉や農業を軸に社会課題の解決に取り組む社会的企業。全ての人の身体的、精神的、社会的健康を実現するため、障がい者等の就労困難者の働く場づくりや社会とのつながりを創出。農福連携、農福一体という新たなかたちの農業生産を行っている。

社会福祉法人 かしのみ福祉会
所在地:山梨県甲府市
農福連携マルシェ
障がい者の日常的な居場所づくりを目的に設立。通所希望の障がい者をより多く受け入れられるよう3つの事業所を運営。地元産果物を使ったドライフルーツやゼリー飲料、焼き菓子等を製造し販売している。事業所別に役割、作業内容、工賃単価等を設定して、全ての障がい者の工賃が月額5万円を超えるように取り組んでいる。

株式会社ウィズファーム
所在地:長野県松川町
農福連携マルシェ
ノウフク・アワード2023グランプリ、ノウフク・アワード2020審査員特別賞「未来を耕す」を受賞。ノウフクJASの取得第1号。ノウフクの社会的認知向上や販路の拡大を目指す。障がいのあるスタッフと共に、りんごを中心に多品種栽培、りんごジュースの加工を行っている。

一般社団法人 都市農福を推進する会 エシカルベジタブルス八王子
所在地:東京都八王子市
農福連携マルシェ
一般社団法人都市農福を推進する会の運営するエシカルベジタブルス八王子は自立訓練(生活訓練)と就労移行支援を行う多機能福祉事業所。認定農業者として農薬・化学肥料不使用のカラフルな野菜の栽培を行っている。栽培、加工、ネット販売等を一貫して行うことにより、様々な業種のワークトレーニングの機会を創出している。

社会福祉法人 進和学園
所在地:神奈川県平塚市
農福連携マルシェ
社会福祉法人進和学園の運営する就労継続支援A型・B型・就労移行支援事業所しんわルネッサンスがノウフク・アワード2021チャレンジ賞を受賞。障がいのある利用者に、生産活動を提供するとともに、訓練等により一般就労や社会的自立につながるサービスを提供している。農産品の加工(HACCP認証取得)や製パン・製菓等の作業を行っている。

株式会社サンファーマーズ
所在地:静岡県静岡市
農福連携フォーラムパネリスト
ノウフク・アワード2022優秀賞を受賞。天候に左右されず周年栽培を行える環境を生かして独自の出荷基準と糖度基準を設けた「アメーラトマト」を生産。ブランド化により安定生産を可能とし、一般従業員と同一賃金での障がい者雇用を実現している。

社会福祉法人 光友会
所在地:神奈川県藤沢市
農福連携マルシェ
農地を取得してから約15年が経過し、近年ではワイン用ブドウ(メイヴ)の育成や、耕作放棄地を活用した米作り、小麦づくりを開始。子供から大人まで、より良い各種障害福祉サービスを目指して、地域に根差した活動を利用者とともに進めている。

特定非営利活動法人 たしざん
所在地:東京都練馬区
農福連携マルシェ
就労継続支援B型事業所「たしざん福祉作業所」を運営。障がいを持っていても出来る事を一つ一つたしざんしていく。都市農業を実践する「たしざん畑」で無農薬栽培のほか、農家への施設外就労、栽培した野菜を使用した「米粉野菜パン」「米粉野菜クッキー」の製造販売、水耕栽培によるレタス栽培等を行っている。

社会福祉法人 土穂会 ピア宮敷
所在地:千葉県いすみ市
農福連携マルシェ
社会福祉法人土穂会の運営する 障害福祉サービス事業所ピア宮敷第1工房がノウフク・アワード2022フレッシュ賞を受賞。同事業所は就労継続支援B型の多機能事業所。「仲間と働く喜び」「人のためになる仕事」を通じ、自立して充実した生活を送ることを応援している。利用者の強みや個性を活かした作業を見極め、障がい者が活躍できる農業経営に取り組んでいる。

一般社団法人 日本農福連携協会
所在地:東京都千代田区
農福連携マルシェ
農福連携に関係する生産者、福祉事業所、企業、団体、行政、消費者等、様々な団体や人々が参画し連携するプラットフォームとしての役割を担っている。農福連携に関する情報発信、団体や人々の橋渡し等を行うことで、農福連携の取組を普及啓発し、様々な生きづらさを抱えた人々が幸せに暮らせる社会の構築を目指している。

有限会社ココ・ファーム・ワイナリー
所在地:栃木県足利市
農福連携マルシェ
知的障がい者をはじめ、皆がいきいきと力を発揮できるように、との想いから設立。葡萄畑では1950年代の開墾以来除草剤不使用。麓のワイナリーでは野生酵母を中心とした醸酵を行い、"こんなワインになりたい"という葡萄の声を生かすことを大切に、100%日本の葡萄からワインを醸造している。

有限会社照沼農園
所在地:茨城県水戸市
農福連携フォーラムパネリスト
農福連携マルシェ
ノウフク・アワード2022フレッシュ賞を受賞。地元IT企業と連携して作業アプリの開発・導入を行い、障がいがあっても作業しやすい方法を考案。作業効率を高め、工賃の向上を実現している。野菜のパック詰めや収穫後の掃除、畑の草取り等、障がいのあるスタッフが活躍している。

社会福祉法人 パステル
所在地:栃木県小山市
農福連携フォーラムパネリスト
農福連携マルシェ
社会福祉法人パステルの運営する多機能型事業所CSWおとめがノウフク・アワード2022準グランプリ「地域を耕す」を受賞。7,000坪の桑農園を運営し、障がいのある利用者が農園管理に励んでいる。地元小学生と一緒に桑の葉や桑の実の収穫を行い、それらを原料とした桑うどんや桑茶、菓子類、ジャム等を製造している。

就労継続支援A型事業所 アスタネ
所在地:埼玉県さいたま市
農福連携マルシェ
株式会社ゼネラルパートナーズが運営している就労継続支援A型事業所。精神障害のあるスタッフが中心となり、菌床シイタケの栽培から配送、販売までの全ての工程を担い、さいたま市や川口市近辺のスーパーを中心に商品を販売している。利用者が業務を通じて経済的自立と安定した就業ができるようにサポートし、売上や利用者数の増加を実現している。

就労継続支援B型事業所 みんなの広場「風」
所在地:千葉県我孫子市
農福連携マルシェ
特定非営利活動法人みんなの広場「風」の運営する就労継続支援B型事業所。「共に働き、共に育とう!」あったかくってやさしくって美味しくってつながれるみんなの広場「風」!畑や工房での仕事の他、cafeでのものづくり等、多岐にわたる仕事を創出することで、個人の体調に応じた働き方を可能としている。

※農福連携マルシェ出店者は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。(2024年1月22日時点)

左から、町田氏、小淵氏、石橋氏、山崎氏、照沼氏

農福連携フォーラム in 関東

【会場】KITTE4 階 JP タワーホール＆カンファレンス
(東京都千代田区丸の内二丁目 7 番 2 号)
【日時】2024/1/30(火)13:00~16:30
【申込】現地：74 人　オンライン：118 人【当日】オンライン：86 人

皆川氏（特別講演）

高橋政務官（挨拶）

申込者の職業（回答185人）

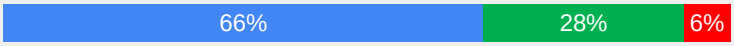
フォーラム実施後アンケート

フォーラム理解度（回答数50人）

フォーラム内容満足度（回答49人）

年齢（回答50人）

農福連携の取組状況（回答47人）



取組意欲（回答数49人）

農福連携マルシェ in 関東
会場：KITTE 地下１階
　　東京シティアイパフォーマンスゾーン
出店数：１６事業者

『農福連携』街頭認知度調査（回答361人）

令和５年度農林水産省農山漁村振興交付金事業

農福連携技術支援者の集い

～農福連携技術支援者と農福連携研究者のクロストーク～

2023年12月22日（金） 13:00~16:00

千葉大学教授 **吉田 行郷**　　兵庫県立大学教授 **豊田 正博**

cross talk

福祉事業者	農業者	企業	行政
社会福祉法人ゆずりは会エール 管理者補佐・職業指導員	株式会社ポタジェ ハーブ農園ベザン 代表取締役社長	帝人ソレイユ株式会社 取締役社長補佐	佐賀県農林水産部農業経営課 農福連携コーディネーター
峯岸　勝（4期生）	**澤邉 友彦（1期生）**	**鈴木 崇之（1期生）**	**藤戸 小百合（6期生）**

農福連携技術支援者

NPO法人
たがやす理事／
大隅半島
ノウフクコンソーシアム
プロジェクト
マネージャー／
ノウフクJAS検査員・
ASIAGAP指導員

進行役 **天野 雄一郎**（2期生）

ファシリテーター（総合司会）
農都共生総合研究所 **川辺 亮**

お申し込みはこちらから

https://forms.gle/kz43Cye8HE27pVAJ7
mail : noufuku@notosoken.jp

場所

千葉大学松戸キャンパス
100周年記念
戸定ヶ丘ホール
（現地とオンライン併用による開催）

参加者

会場参加申込定員：50名程度
オンライン参加定員：100名程度

内容

1. 吉田教授・豊田教授の対談
（情報提供：吉田教授「マッピングから見た農福連携」、豊田教授「福祉事業所作業分析による難易度一覧表の実証へ向けて」）
2. 農林水産省 農福連携推進室からの情報提供等
3. 農福連携技術支援者の今①
（福祉事業所の視点から）
4. 農福連携技術支援者の今②
（農業者の視点から）
5. 農福連携技術支援者の今③
（企業の視点から）
6. 農福連携技術支援者の今④
（コーディネーターの視点から）
7. パネルディスカッション
8. 質疑応答等

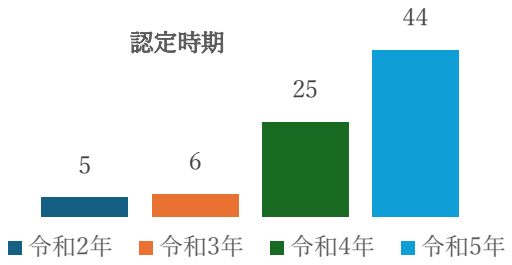
応募締切 ： 12月15日（金）

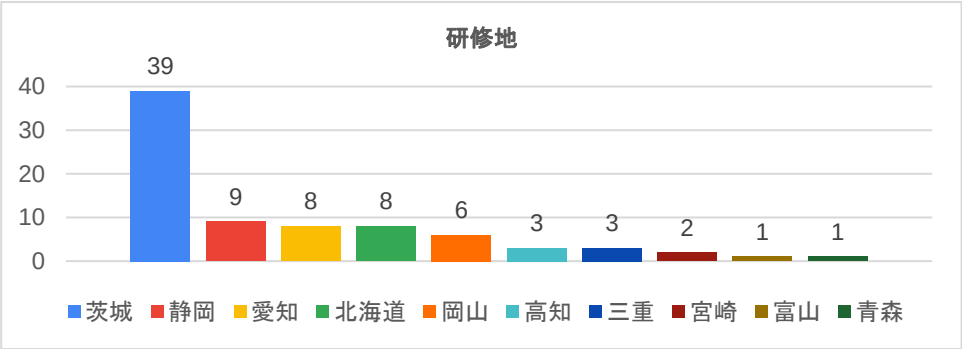
【主催】農都共生総合研究所　【協力】国立大学法人 千葉大学

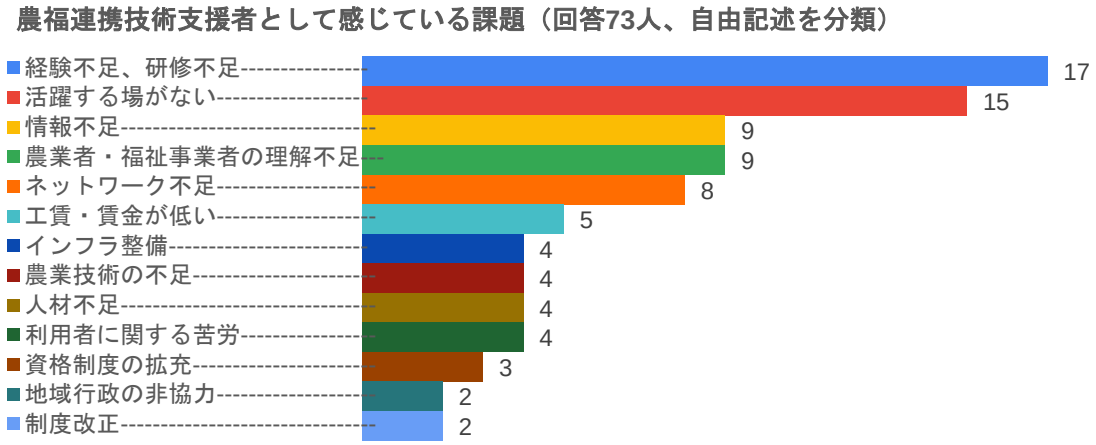
上段左から農都（川辺）、峯岸氏、天野氏、吉田氏　下段左から豊田氏、澤邉氏、鈴木氏、藤戸氏

農福連携技術支援者の集い
【会場】千葉大学 100 周年記念戸定ヶ丘ホール（千葉県松戸市）
【日時】2023 年 12 月 22 日（金）13:00~16:00
【申込】現地：12 件、オンライン：69 件【当日】オンライン：97 人

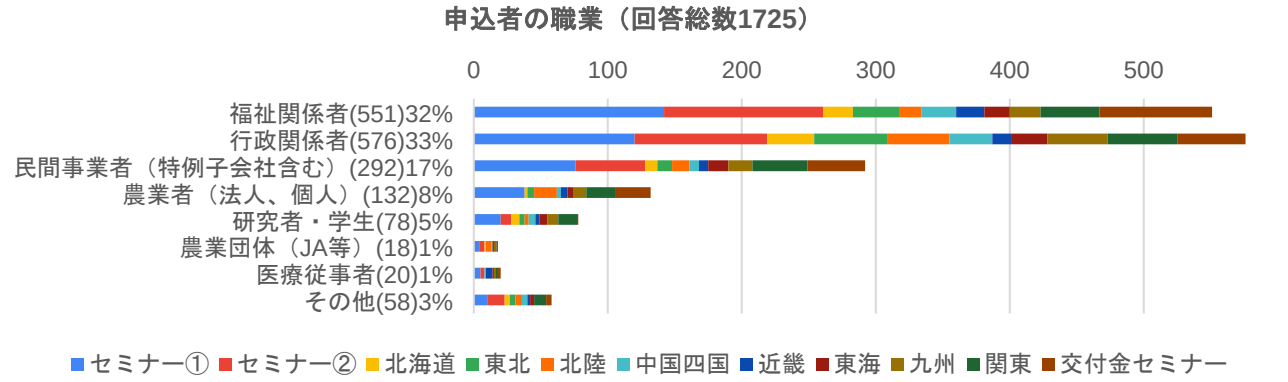
申込アンケート

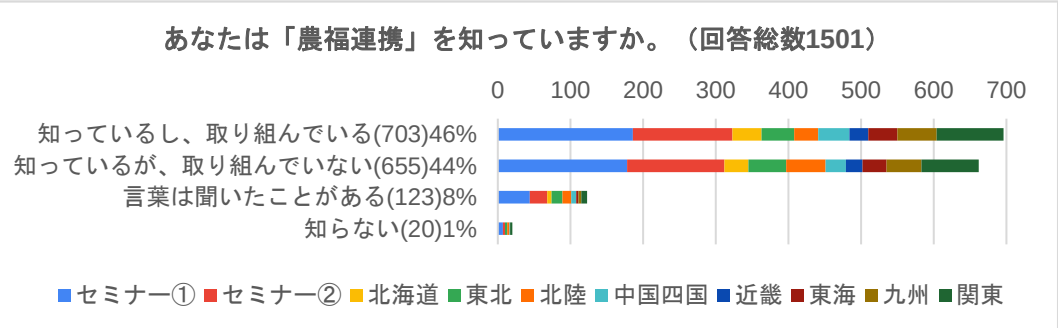


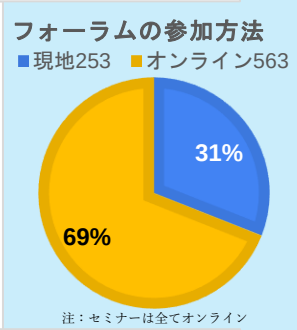


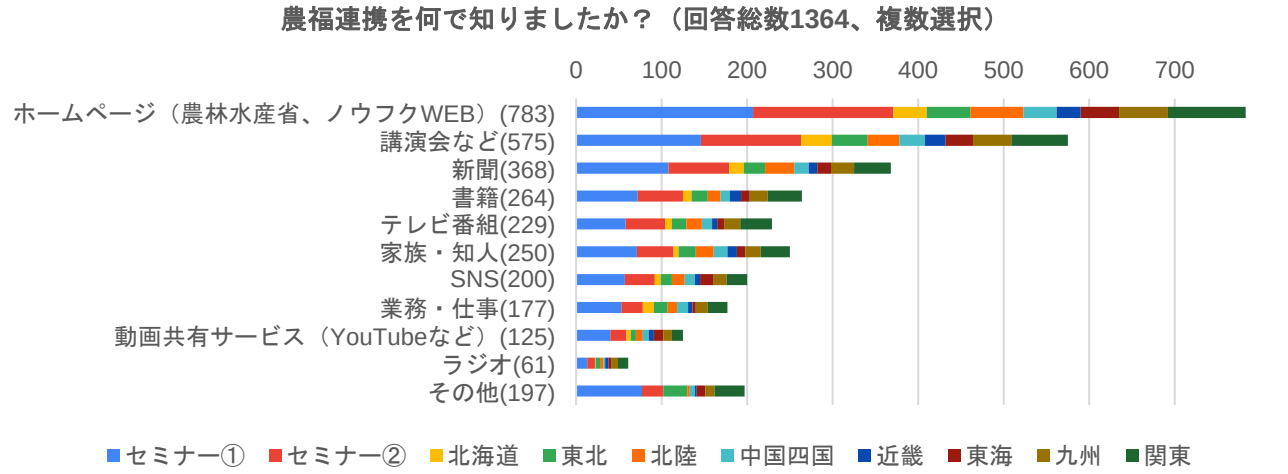


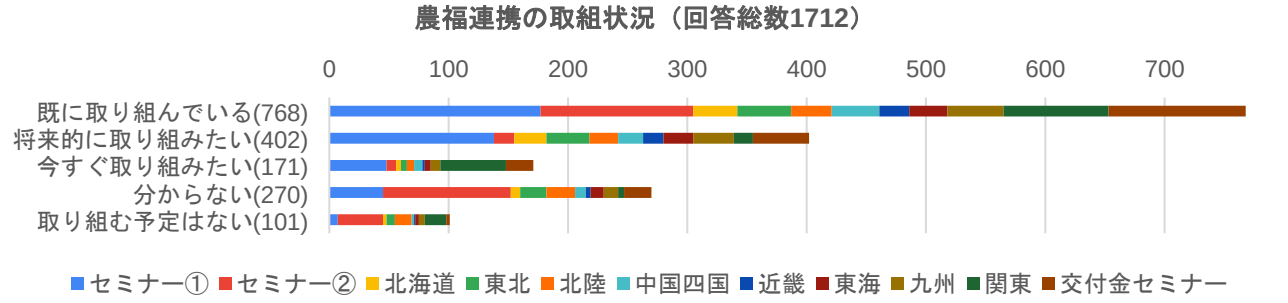
セミナー・フォーラム申込者アンケート全会場合算

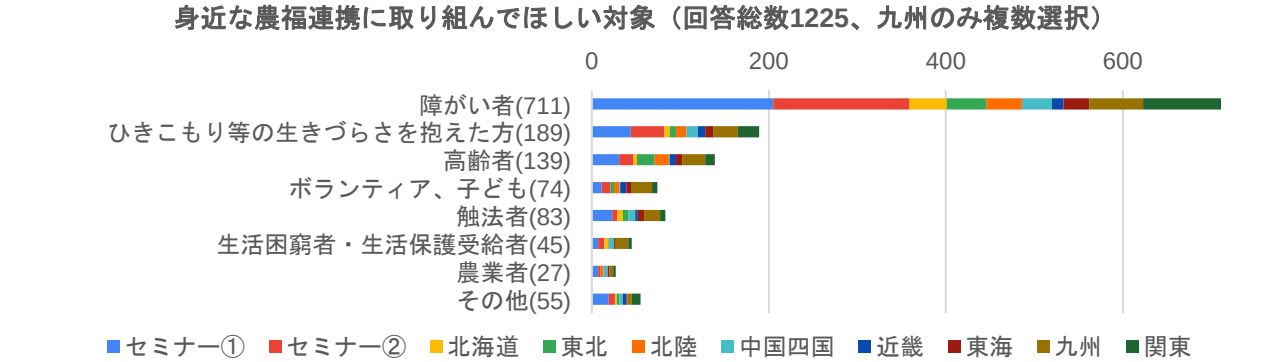




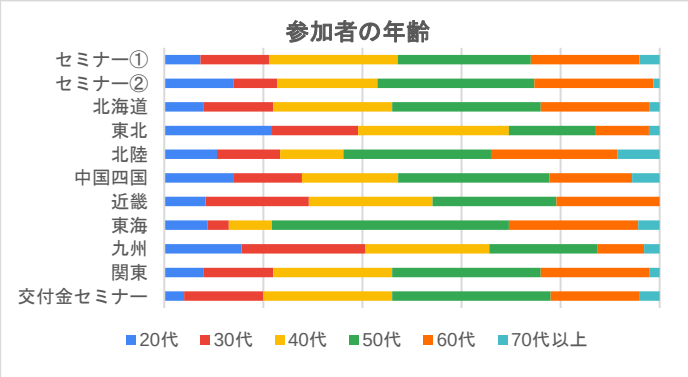


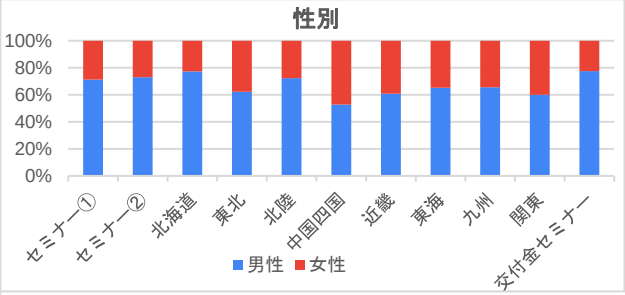


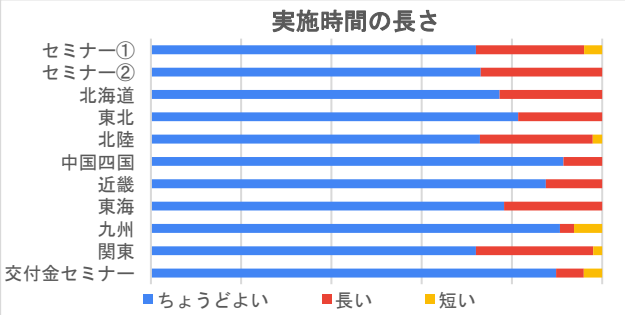




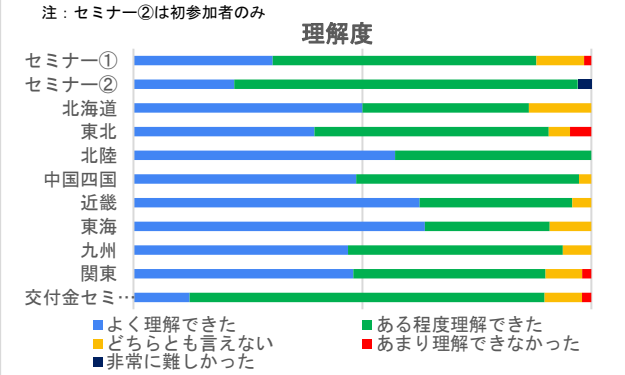
セミナー・フォーラム実施後アンケート会場比較

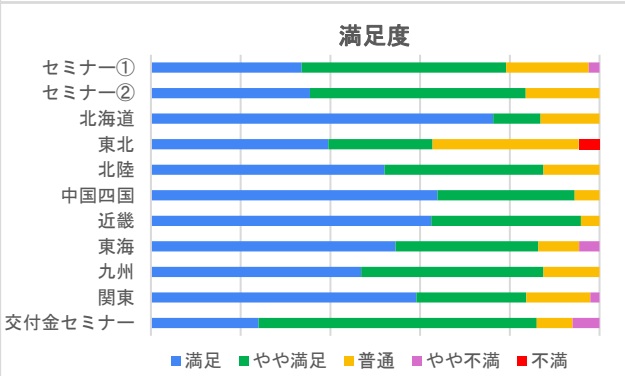


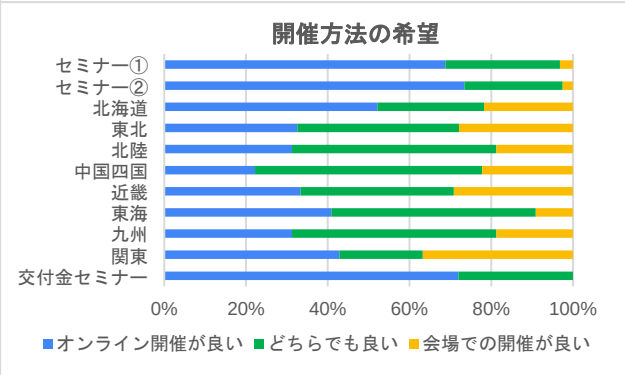


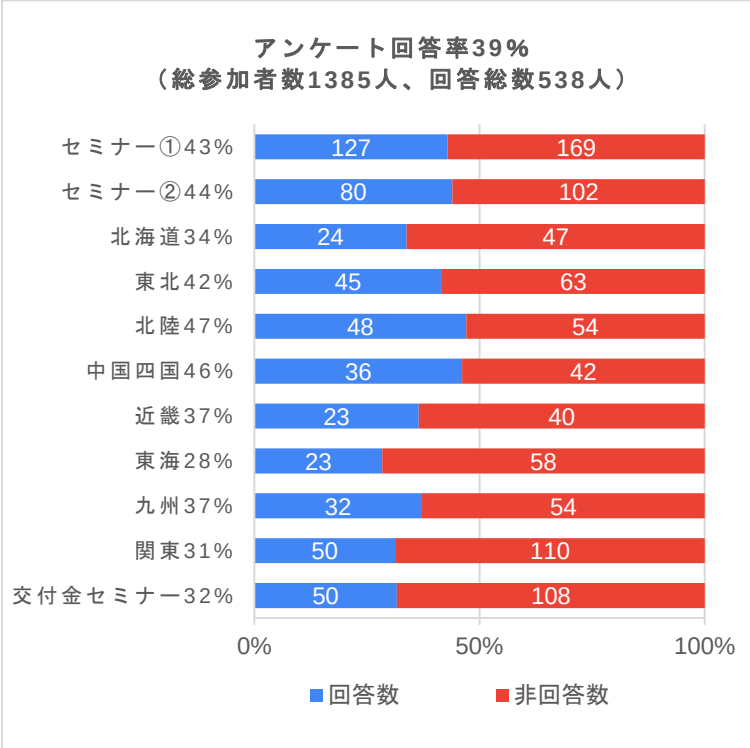


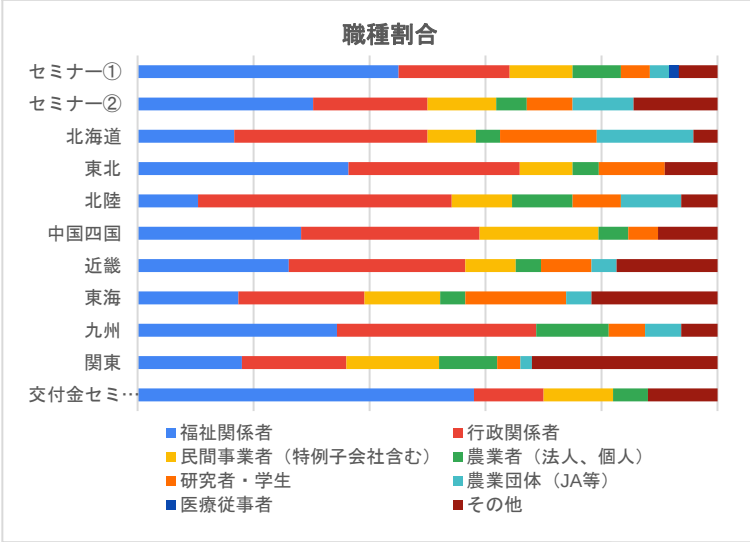
注：セミナー②は初参加者のみ

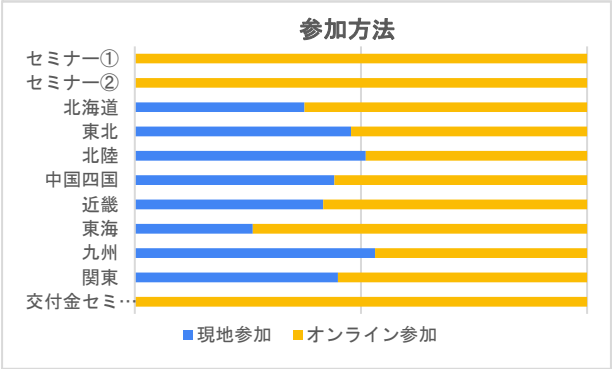


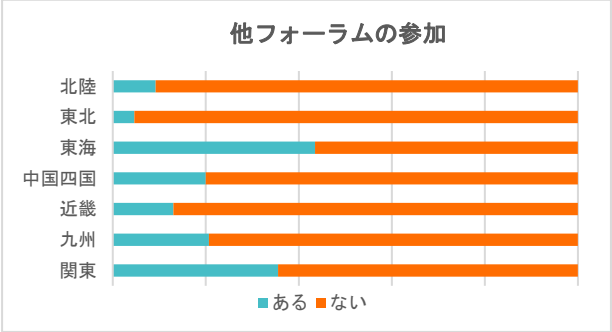


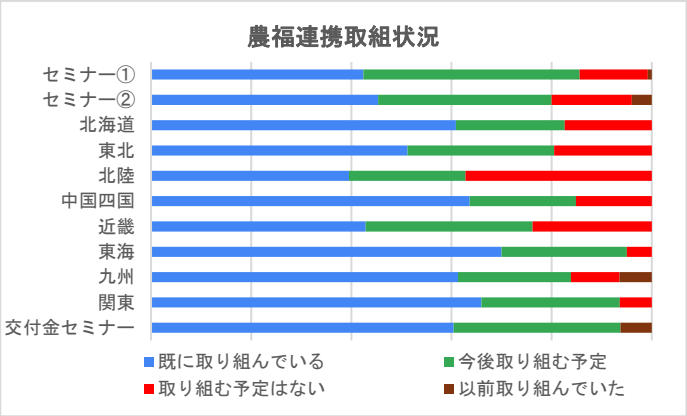


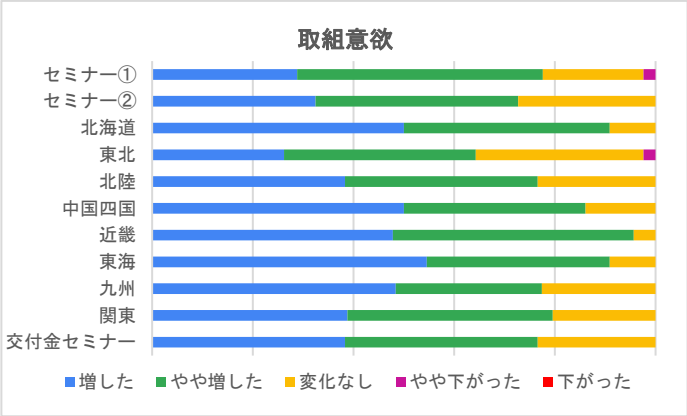




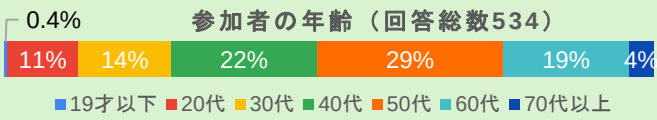


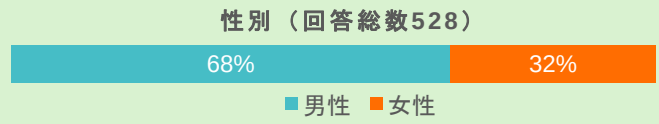


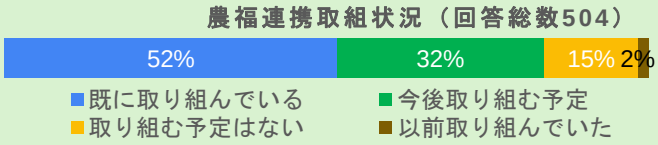


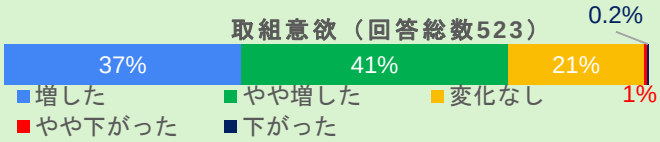


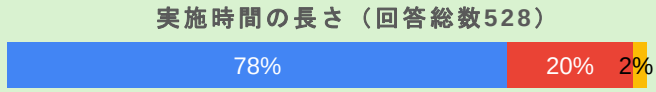
セミナー・フォーラム実施後アンケート合算

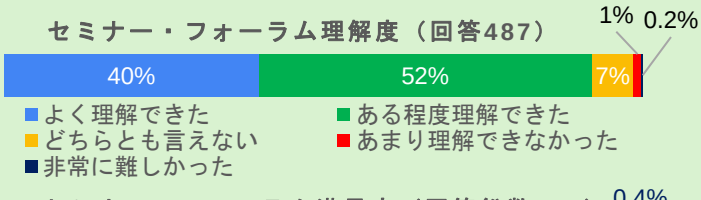


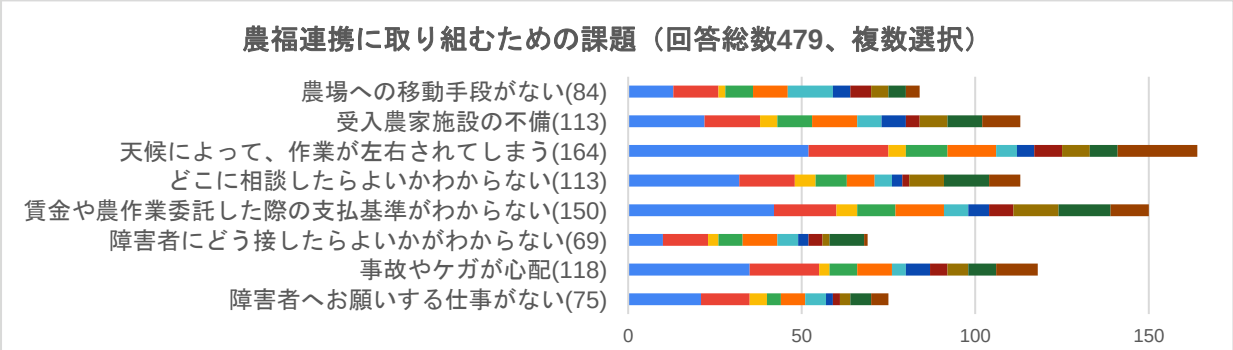


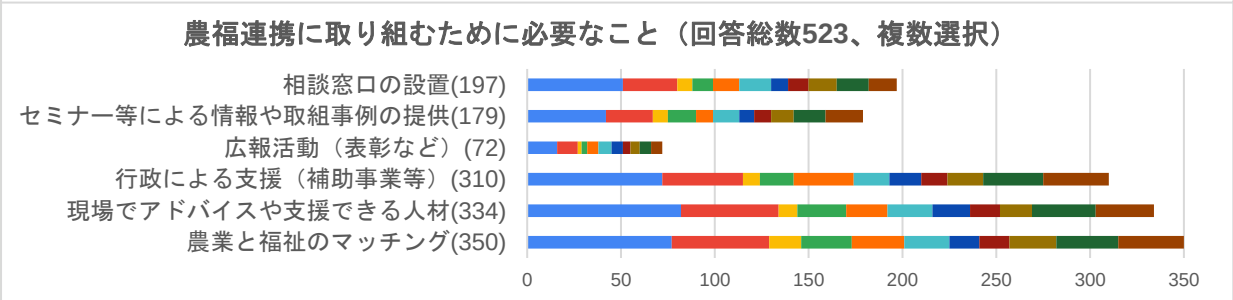


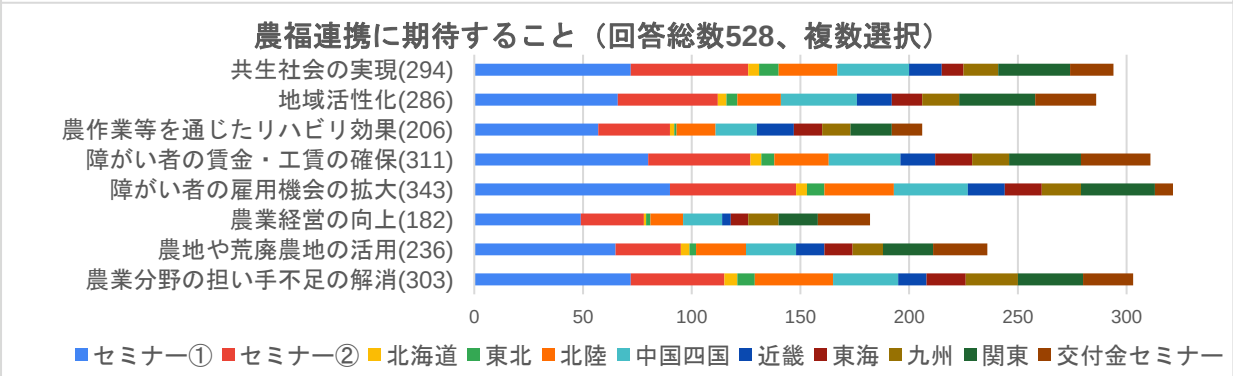


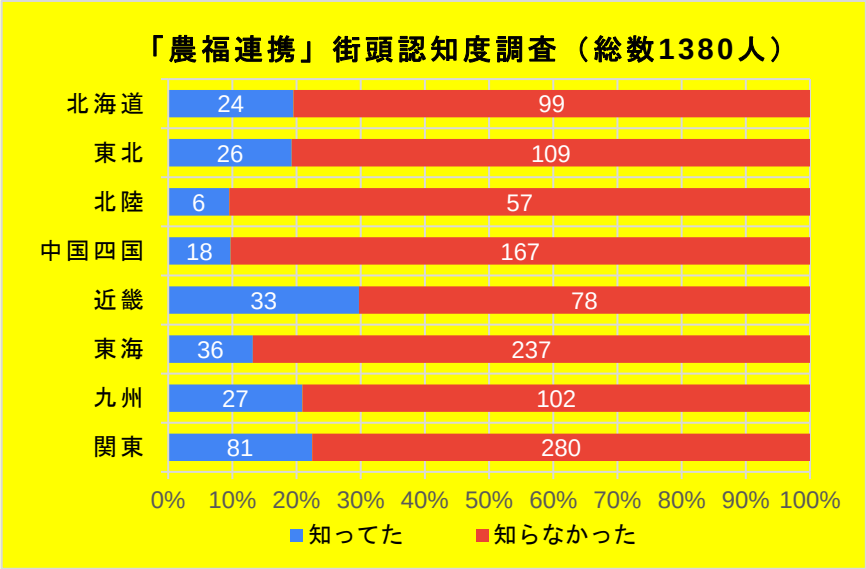


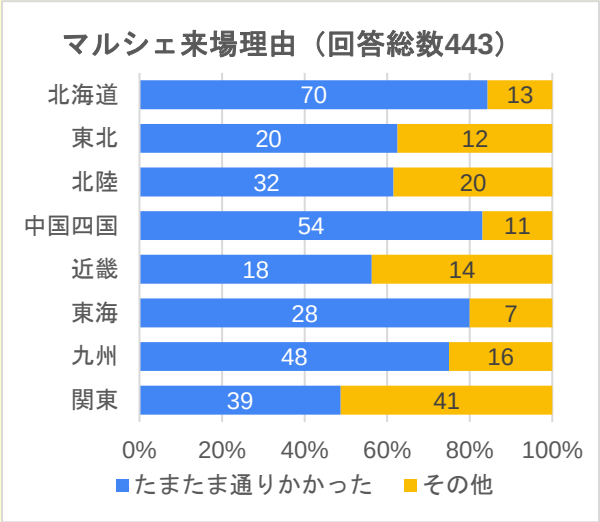


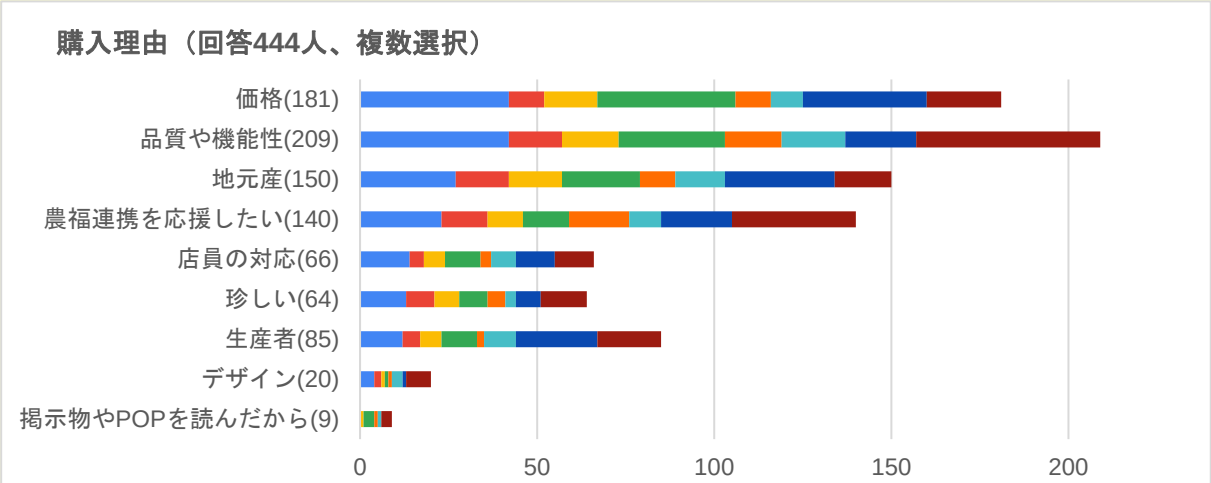


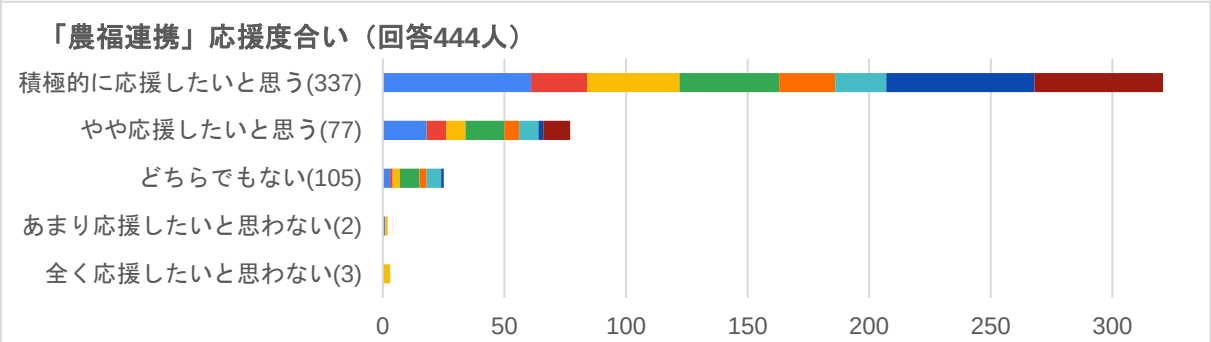


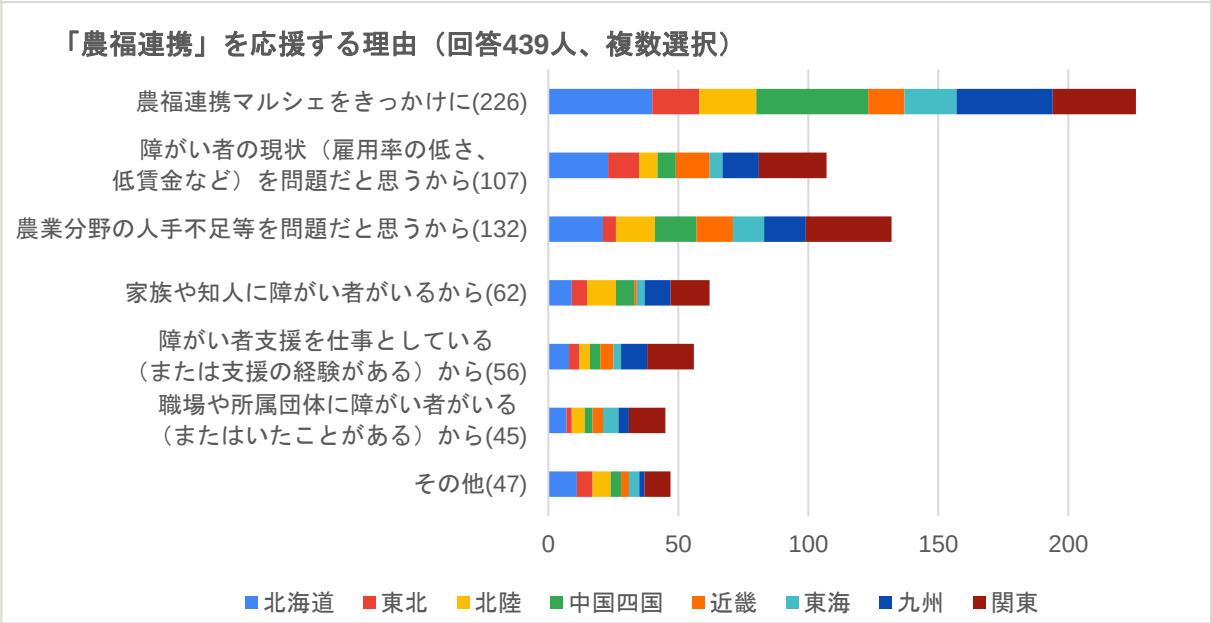








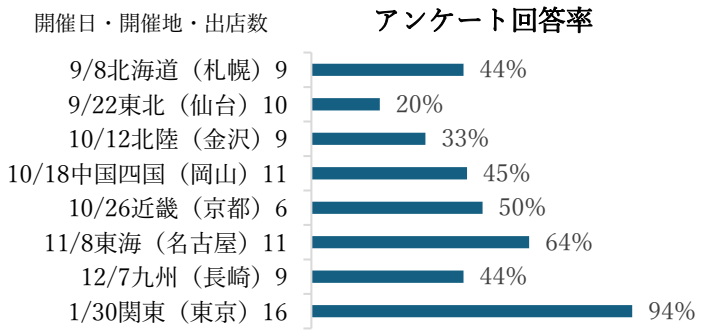


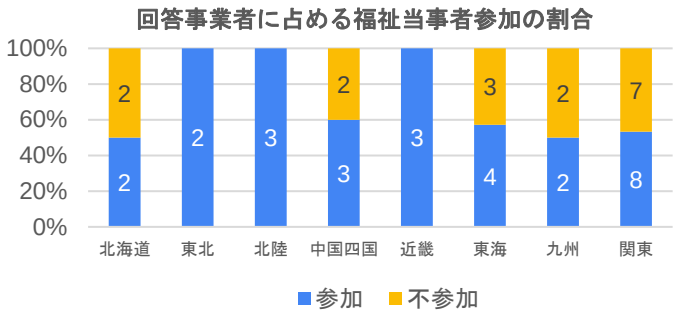


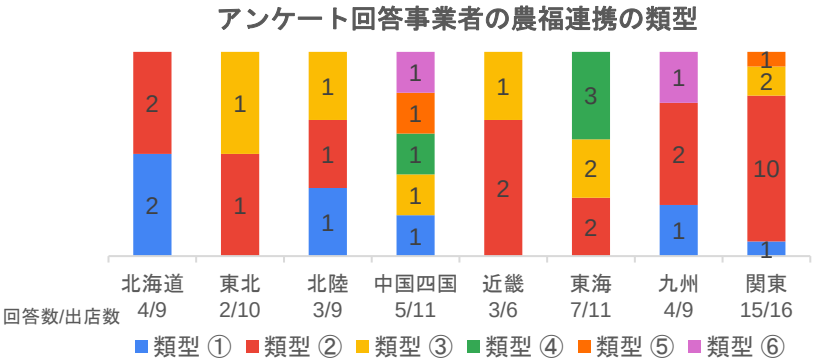
マルシェ購入者アンケート全会場合算

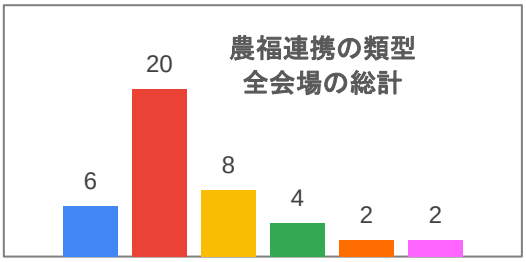
マルシェ出店者実施後一斉アンケート

総出店数 81
アンケート回答数 43（回答率 53%）



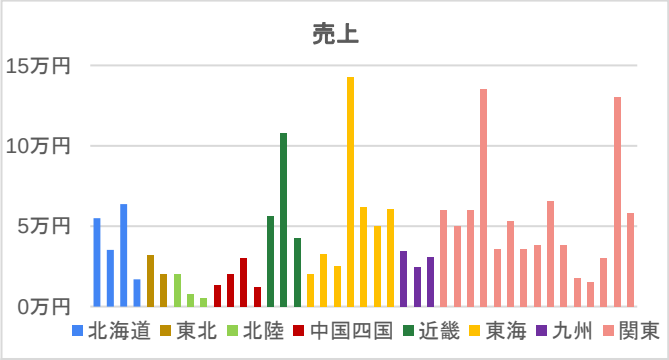


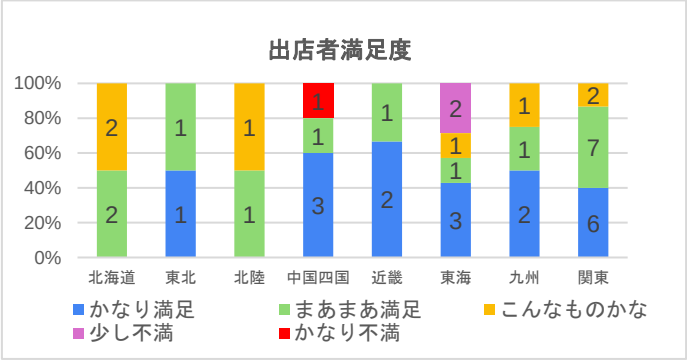


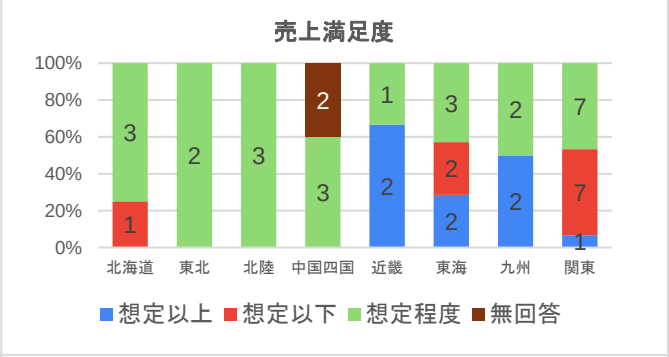


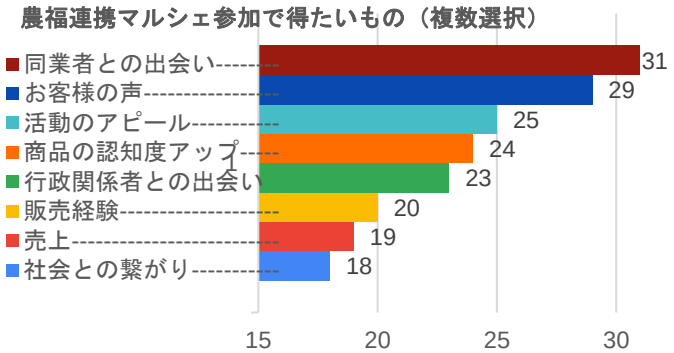
類型①：社会福祉法人等から施設外就労の形で障害者が農家で農作業の手伝いをする。
類型②：社会福祉法人等が自ら農作業を行ったり、農業法人を別途立ち上げ併設させる。
類型③：農家や農業法人が障害者を雇用したり、障害者就労支援施設を別途立上げ併設させる。
類型④：企業が子会社を設立して障害者就労の場を確保する。
類型⑤：病院や NPO 法人等が障害者に農作業に取組んでもらうことで身体や精神の状態を良くしていこうとする園芸療法の取り組み。
類型⑥：その他

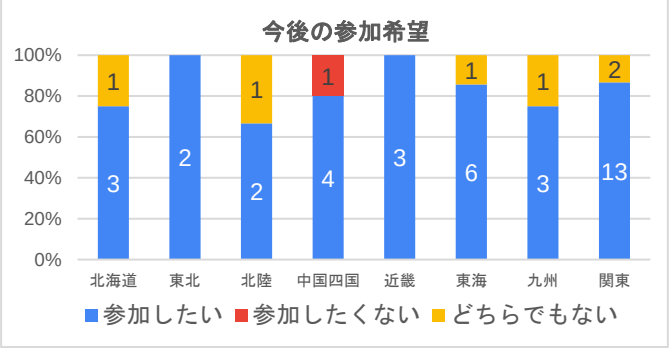
参考文献：吉田行郷「農福連携が農業と地域をおもしろくする」(2020)











まとめ

分析と課題

１セミナー・フォーラム申込者アンケート[1]

＜分析＞

1-(1)職種

全体で見ると福祉関係者と行政関係者の割合が同じ程度に多く、合わせると約 3 分の 2 を占めた。農業関係者は１割弱だった。

1-(2)認知度

農福連携を「聞いたことがある」や「知らない」という程度の認知度である申込者も約 9.5%存在した。

1-(3)認知経路

農福連携を知ったのはホームページ（農林水産省、ノウフク WEB）や講演会と答えた申込者が圧倒的に多かった。

1-(4)意欲

農福連携の取り組み意欲は「わからない」「取り組む予定はない」が約 22%あり、農福連携の取り組みに積極的ではない申込者も存在した。

1-(5)対象

農福連携に取り組んでほしい対象としては約 60%が障害者と答えた。

1-(6)農福連携技術支援者の課題

「農福連携技術支援者の集い申込者」が同支援者として感じている課題は「経験不足、研修不足」と「活躍する場がない」といった回答が多く、次いで「情報不足」や「農業者・福祉事業者の理解不足」「ネットワーク不足」が多かった。

＜課題＞

１－①認知度とその段階に応じた支援の必要性

セミナー・フォーラムの申込者の中には、農福連携を「これまで知らなかった」または「聞いたことがある」程度の認知度である者が 1 割ほど存在した。こうした人たちが段階を追って農福連携への理解を深め、取組にまでつながりうるサポートや企画が必要である。

取組の濃淡は様々あって良く、「関心があるけれども取組むことができない」という人に向き合い、その第一歩を踏み出す切っ掛けとなるような環境整備を行うことが、農福連携の裾野を拡げるためには必要である。

１－②ホームページ以外の情報発信の不足

申込者が農福連携を知った媒体は、ホームページやイベントにおける関係機関の直接発信の力が大きいことがわかるが、他の媒体による発信が足りていないと解釈することもできる。現状は、既存の農福連携関係者の内輪イベントの枠を出ていない、との厳しい見方もできる。

１－③対象者イメージの偏り

農福連携に取り組んでほしい対象は「障害者」が一番多かったが、他の選択肢である「ひきこもり等の生きづらさを抱えた方」や「高齢者」「ボランティアや子ども」「触法者」「生活困窮者」が農福連携の対象となることの認識が薄い可能性がある。障害者以外の取組にもフォーカスを当てながら、農福連携の可能性や多様性、有効性を共有していくことが必要である。

１－④農福連携技術支援者のネットワーク強化の必要性

農福連携技術支援者は 2023 年 5 年 12 月時点で 489 名が認定されているが、12 月 22 日に開催した「集い」の申込者は 81 人と、約 17%に過ぎない。常設のネットワークとしては 2022 年 12 月 30 日に作成されたフェイスブックグループがあり、現在（2024 年 3 月）の登録者数は 108 人となっている。しかし、十分に活用されているとは言い難い。農福連携技術支援者への期待や役割は大きいが未だ模索段階であるため、情報や課題の共有ニーズは高い。同グループの拡大や活発化を図り、年に一度の「集い」の在り方もさらに有意義なものへと変えていかなくてはならない。

2 セミナー・フォーラム実施後アンケート[2]

＜分析＞

2-(1)アンケートの回答率[3]

セミナー3 回とフォーラム８回の実施後アンケートの総回収率は約 39%だった。フォーラムのみでは、申込者の約 31%が現地参加だが、実施後アンケートの回答者に占める現地参加者の割合は 45%で、現地参加者はオンライン参加者よりも回答率が高い。

2-(2)年齢構成

アンケート回答者は 40 代 50 代が比較的多いものの、次いで 60 代、30 代、20 代と、会場毎のばらつきはあるが、比較的多様な世代の参加が見られた。

2-(3)男女比

全回答者の男女比は男性 68%女性 32%だった。

2-(4)満足度と取組意欲

総計では、「満足」44%と「やや満足」39%を合計した 83%がおおむね満足だったと答えている。「取組意欲」については「増した」37%、「やや増した」41%を合わせると 78%が意欲を増していた。

2-(5)開催方法の希望

開催方法は、フォーラムに関してはオンライン開催と会場開催の希望が同じ程度であり、北海道はとりわけオンライン開催の希望が多かった。オンラインで開催した 3 つのセミナーはいずれもオンライン開催の希望が多かった。

2-(6)農福連携に取り組むための課題

「天候によって作業が左右されてしまう」が一番多く、次いで「賃金の支払い基準がわからない」だった。

2-(7) 農福連携に取り組むために必要なこと

「農業と福祉のマッチング」が一番多く、「現場でアドバイスや支援できる人材」「行政による支援（補助事業等）」を含めた 3 点が特に多かった。

2-(8)農福連携に期待すること

「障害者の雇用機会の拡大」が最も多く、僅差で「障害者の賃金・工賃の確保」「農業分野の担い手不足の解消」が続いた。

＜課題＞

２－①女性参加者の割合が低い

実施後アンケートの結果から見ても、当セミナー・フォーラムの参加者に占める女性の割合は少ない。なぜ女性参加者が少ないのか調査する必要がある。農福連携には多様な担い手の参入が望まれ、こうしたセミナー・フォーラムに女性が参加しにくい要因は、福祉当事者等が抱える課題と共通項がある可能性もある。

２―②参加者の満足度について

満足度については、総じて高水準だった。しかし、東北会場は「満足」40%「やや満足」23%の合計が 63%で、他会

[1] 総計は p29、個別の結果は各イベントの項を参照

[2] セミナー・フォーラム実施後アンケートの会場比較は p30、総計は p31、個別の結果は各イベントの項を参照

[3] 参加者数は、現地参加者数は申込数、オンラインは Zoom に記録されたアクセス者総数である。

場の約 8 割以上に比して特に低かった。「普通」33%と「不満」5%の回答者の中には「あまり理解できなかった」との回答者はなく、「普通」の中に実施時間が「長い」との回答者はいたが、「不満」と回答した人は実施時間については「ちょうどよい」と答えていた。実施時間の長さや理解度とは別の要因によって満足度が低かったものと思われる。

２－③参加しにくさの調査の必要性

参加したくてもできなかった人のニーズは、参加していない人を対象に調査しなければわからない。当事業のイベントを平日に開催したことにもメリットもあればデメリットもある。開催日やその時間帯、長さについても、事業効果を最大化するための検討が必要である。

２－④農福連携と農業現場の共通課題

「農福連携に取り組むための課題」として多く選択された天候や労働環境は、農業者にとっても厳しい側面であるが、体調管理を必要とする福祉当事者にとっては特に厳しい要素である。労働環境の過酷さが農業離れの一因であり、農業者にとっても改善が望まれる。農福連携を推進することが農業者自身の環境改善に本腰を入れる契機となりうる。

２－⑤中間支援者の重要性

「農業と福祉のマッチング」が農福連携に取り組むために必要なこととして多く選択された。両者の接点づくりが大きな課題となっており、マッチングをコーディネートする機関や人材の必要性が浮き彫りになっている。つなぐ役割を担う農福連携技術支援者、農福連携コーディネーターなどの中間支援者の役割は大きい。

３街頭認知度調査[4]

＜分析＞

3-(1)回答総数は 1380 人「知っていた」251 人（18%）「知らなかった」1129 人（82%）だった。

3-(2)認知度が一番高かったのは近畿で 30%、一番低かったのは中国四国会場と北陸会場の 10%だった。

＜課題＞

街頭認知度調査は、マルシェ会場の来場者とその周辺の通行人を対象にシール投票を行ったものであり、地域の実態よりも高い結果となっていると考えられる。にもかかわらず「知っている」と答えた人の割合が、調査した全国 8 か所のどの地域でも 3 割に満たないということは、国全体として「農福連携」という言葉ですら認知している人が少ないことを示唆している。

４マルシェ購入者アンケート[5]

＜分析＞

4-(1)来場理由

「たまたま通りかかった」のではない「その他」の割合が一番多かったのは関東で 51%、次いで近畿 44%、北陸・東北 38%、一番低かった（すなわち「たまたま通りかかった人」が多かった）のは北海道 16%、次いで中国四国 17%、東海 20%、九州 25%だった。全体では「たまたま通りかかった」62%「その他」38%だった。

4-(2)購入理由

「品質や機能性」が一番多く、次いで「価格」だった。

4-(3)農福連携の応援度合

「積極的に応援したいと思う」が圧倒的に多かった。

4-(4)応援する理由

「農福連携マルシェをきっかけに」が一番多く、次いで「農業分野の人出不足等を問題だと思うから」、「障害者の現状（雇用率の低さ、低賃金など）を問題だと思うから」が続いた。

＜課題＞

４－①マルシェ販売に必要な説得力

立ち寄って見て回ったとしても購入に至るには、一段と高いハードルがある。一定の説得材料（物語）が必要であり、価格に見合う価値と品質は大前提だが、それを説明するためのストーリーづくりが必要である。

４－②出店者と来場者との意識のズレ

一般的には「マルシェ」は、生産者直売ならではの品質の高さと、比較的安価であること、対面販売の信用力に魅力がある。しかし、マルシェ出店者の多くが 6 次産業化による収益性の向上を図っている。こうした意識のズレを埋める努力が必要である。

４－③普及啓発効果の高さについて

たまたま通りがかった人が、農福連携商品の品質や機能性、価格の良さを評価して購入した上で、農福連携を取り巻く問題を理解し応援するに至るのが、普及啓発としての農福連携マルシェの理想である。

回答者全体の 62%が「たまたま通りかかった」購入者であるにもかかわらず、応援度合いでは「積極的に応援したいと思う」が約 76%で圧倒的に多かった。一方で購入理由に「農福連携を応援したい」を選択したのは約 36%で、「品質や機能性」（約 47%）や「価格」（約 41%）は「応援」を上回っていた。

５マルシェ実施後出店者アンケート[6]

＜分析＞

5-(1)回答率

アンケートは全てのイベントが終了した令和 6 年 2 月に行ったため、最後に開催した関東会場への出店者の回答率が最も高かった。

5-(2)総出店数

総出店数は 81 でアンケートの回収数は 43、回答率 53%だった。

5-(3)福祉当事者の参加

回答した 43 事業者の内 16 事業者（37%）で福祉当事者の参加があった。

5-(4)出店者の類型

出店者の農福連携の類型は「類型②社会福祉法人等が自ら農作業を行ったり、農業法人を別途立ち上げ併設させる。」が一番多かったが、全体としてはすべての類型があった。

5-(5)売上

売上には出店者間でかなりの差があった。売り上げの最高額は東海会場の 142,900 円だった。

5-(6)売上想定

売上は 16%が想定以上、56%が想定程度、23%が想定以下だったと回答した。中でも関東会場の約半数が想定以下の売り上げだったと回答した。東海会場の 2 店と北海道会場の 1 店も想定以下と答えた。一方、近畿会場 2 店や九州会場 2 店、東海会場 2 店、関東会場 1 店は想定以上だったと答えた。

5-(7) 出店満足度

「当マルシェへ参加したことの満足度」は「かなり満足」40%「まあまあ満足」36%で 7 割以上が満足と回答した。一方で「少し不満」2 店「かなり不満」も 1 店あった。

---

[4] P32 参照

[5] P32 参照

[6] P33 参照

5-(8) 次回参加希望

同様なマルシェを開催する場合の参加を希望したのは84%だったが、上記で「かなり不満」と答えた中国四国会場の１事業者は「もう参加したくない」と回答した。

5-(９)「マルシェ参加で得たいもの」

「マルシェ参加で得たいもの」は、「同業者との出会い」が最多で、次に「お客様の声」、「活動のアピール」と続いた。

＜課題＞

５－①マルシェ主催者の責任について

普及啓発事業であったとしても、生産者にとっては売れた量が一番の成果である。客がいたとしても実際に売れるかどうかは出店者次第ではあるが、マルシェを開催する主催者には客が溢れる会場にする責任がある。たまたま通りがかる人には限りがある。事前の周知活動でたまたまイベントを知る確率を高める努力が必須である。そうした活動そのものが普及啓発活動なのであり、出店者満足度は総じて高かったが、事前活動が不十分だったことは否めない。

５－②当事業における農福連携マルシェの特徴について

自治体単位や有名どころが集まる全国単位の農福連携マルシェは少なくないが、都道府県を跨いだ地方農政局の管轄地域といった規模で各地の先進事業者が集まって開催するマルシェは珍しい。出店者の大部分は大手流通網で販売している事業規模ではないから、来場者にとっては、各地の事業者の元へ行かなければ入手できない個性的な商品と一度に多く出会うことができるとともに、様々な農福連携の取組を知ることのできる、とてもユニークなイベントだった。また、出店者同士にとっても、各地に点在している先進事業者が集うことにより、互いに知り合い高め合うことのできる貴重な機会となった。

事業成果

＜認知度向上セミナー＞

・実施後アンケート回答者の８割以上が一定の理解度と満足度を示し、取組意欲が増していた。

＜農福連携フォーラム＞

・実施後アンケート回答者の 8 割程度が一定の理解度と満足度を示し、取組意欲を増していた。

＜農福連携マルシェ＞

・アンケート回答した出店者の約７割が想定程度以上の売上げを得て、満足感を得ていた。

・購入者アンケート回答者の約 6 割が「たまたま通りかかった」購入者だったが、7 割以上が「積極的に応援したいと思う」と答え、来場者の認知度及び理解度の向上に貢献した。

＜農福連携技術支援者の集い＞

・実施後アンケートで「来年度も参加したい。」が約 9 割で、満足度の高いイベントとなった。

＜メディア露出＞

東海、九州、関東の各会場の様子が報道された。

・スターキャット・ケーブルネットワーク「農福連携マルシェ【StarCat ウィークリー】」2023 年 11 月 16 日放送

・テレビ長崎「マルっと」「注目　農業×福祉の互いの課題解決へ　長崎市で「農福連携」のイベント」2023 年 12 月 7 日放映

・日本農業新聞「農福連携活動を共有　東京でフォーラム販路拡大し工賃増」2024 年 1 月 31 日首都圏版 13 面掲載

事業統括（所感）

■**WEB セミナー**：農福連携に取り組もうとしている、あるいは始めたばかりの方々へ向けた「一歩め」や「次なるステップ」の「きっかけづくり」を主目的として開催し、有識者と実践者（農・福・企業）に登壇いただき、それぞれの立場で理論的かつ実践的な内容をお話いただいた。オンライン配信ではあるものの、ありがいことに会場に赴いてくださった登壇者が半数以上であり、おかげで登壇者同士の活発な議論へとつながったのではないかと思われる。参加者においても、一定の理解や満足度を得られたとともに、取組の初期段階にいる実践者・実践者候補の方々がどのような課題と直面しているかについて、改めて表出化できたと考えられる。交付金活用セミナーについては、実際の活用者と農水省・厚労省からの具体的な情報提供があり、具体的な制度活用方法のヒントを得られたのではなかろうか。

■**農福連携技術支援者の集い**：当日は、関係者を含めると１５０名程度の参加があり、千葉大学吉田教授の御縁で、農福連携に関わる千葉県庁や JA の担当者の方々にも参加・発言いただいた。アンケート結果等にもあるように「技術支援者にはなったが、どのように活動すべきか」というアクションプランに悩む方々が一定数見られるため、技術支援者としての学びやネットワークをどう構築し活かすかについて定期的な議論の場づくりの必要性が改めて表出化された。

■**フォーラム・マルシェ**：北海道・東北・中国四国・北陸・近畿・東海・九州・関東と、全国８箇所において、フォーラムとマルシェを徒歩１５分以内で移動できることを基本として、相乗効果を図りながらの開催であったが、主目的は「それぞれの地域の農福連携の魅力を伝えること」であった。フォーラムを通じ、その取組の背景にどんなライフストーリーや理念そしてネットワークが生じたかなどについての議論が交わされ、マルシェにおいては、取組の成果と言える農産物や加工品等を通じて、農福連携の魅力を各地域の方々へ伝えるとともに、登壇者同士、来場者、出店者同士など、幅広い交流機会にもなったのではないかと拝察する。このような「交流機会」や「魅力発信」をより深めかつ掘り下げたかったという後悔もあるが、上記セミナー含め、映像や本報告書等の多くのアーカイブスを残せたことはひとつの成果と考えている。そして、そこに満足することなく、このアーカイブスや抽出された課題、生じたネットワークなどを活かし、いかに実践的醸成を図れるかが今後の大きな課題であり、当研究所としても、実践研究及び実践支援の取組を今後も継続し深めていきたいと考える次第である。

＜事業実績報告書＞

令和５年度農山漁村振興交付金
農山漁村発イノベーション推進事業
（農福連携型のうち普及啓発・専門人材育成推進対策事業）

報告者-----株式会社農都共生総合研究所
東京都文京区湯島１－８－４山川ビル７Ｆ
noufuku@notosoken.jp
提出日-----2024 年 3 月 31 日